

長岡京市文化財調査報告書

第 76 冊

2021

長岡京市教育委員会

編集 公益財團法人 長岡京市埋蔵文化財センター

長岡京市文化財調査報告書

第 76 冊

2021

長岡京市教育委員会

編集 公益財團法人 長岡京市埋蔵文化財センター

序 文

私たちの長岡市は、豊かな水と緑に恵まれた良好な環境と大都市を結ぶ交通の利便性により発展してきたまちです。

古くは旧石器時代から人々が生活を営んだことがわかつており、特に 784 年に「長岡京」という当時のわが国の都が置かれた地として、全国的に知られています。

また、市内には史跡乙訓古墳群を構成する首長墓や、勝龍寺城などの城館跡、乙訓寺・長岡天満宮といった神社仏閣など、数多くの文化遺産が存在し、現代に至るまで豊かな歴史と文化を守り育んできました。

しかし、こうした遺跡は、まちの発展の一方でかつての姿が失われつつあります。本市では、これらの遺跡の調査・保護に力を入れるとともに普及・啓発に努め、地域全体で風土や文化遺産を守るまちづくりを進めています。

さて、本報告書は令和 2 年度に長岡市教育委員会が実施した発掘調査と詳細分布調査の成果をまとめたものです。

乙訓寺第 28 次調査は、創建時から長岡京期の中心伽藍を探るために実施し、正方位を指向していませんが、新たな掘立柱建物を確認しました。また、長岡京跡右京第 1232 次調査では、大型掘立柱建物の一部が検出され、平成 30 年度に発見した長岡京期の大型掘立柱建物や築地状の区画と関連した、大規模な施設の存在を示唆する貴重な成果が得られました。

詳細分布調査では、市域の約半分を占め市街地のほぼ全域を包括する長岡京跡やその他の遺跡に関する情報の蓄積が進んでいます。

最後になりましたが、発掘調査にあたり数々のご助力をいただきました土地所有者や地元協力者の方々、ご指導・ご助言をいただいた諸先生方並びに調査を担当していただいた公益財団法人長岡市埋蔵文化財センターなどの関係機関に深く感謝いたします。

本書が文化財保護の普及・啓発の一助となり、また地域学習の資料として広く活用いただければ幸いです。

令和 3 年 3 月

長岡市教育委員会

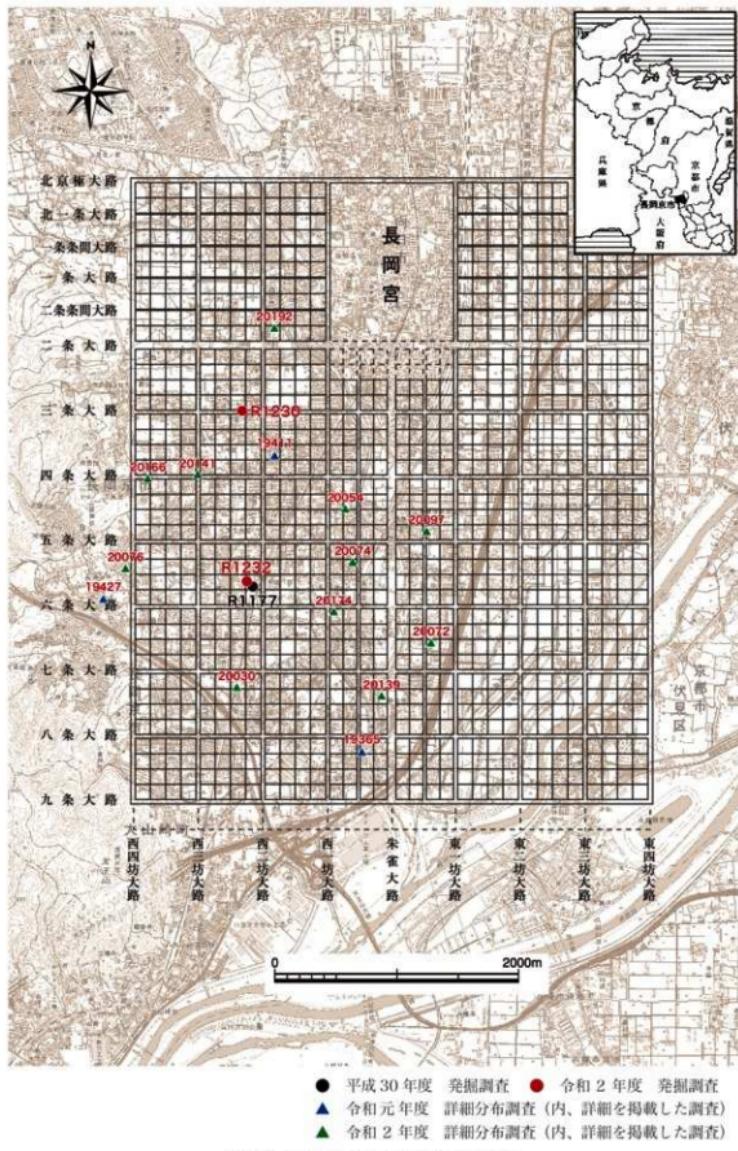
教育長　山　本　和　紀

凡　　例

1. 本書は、長岡京市教育委員会が国庫補助事業として公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターに事業を委託して実施した、令和2年度の発掘調査および令和元年度・2年度の詳細分布調査に関する概要報告である。付編1・2は、平成30年度に実施された長岡京跡右京第1177次調査に関するものである。なお、付編1は令和元年度国庫補助事業として実施した樹種同定に関するものである。
2. 調査対象地は、第1図および付表-1に表示した。
3. 長岡京跡の調査次数は、右京城と左京城に分けて通算したものである。また、調査地区名は、前半が奈良文化財研究所の遺跡分類表示、後半が京都府教育委員会『埋蔵文化財発掘調査概報』(1977年)収録の旧大字小字名による地区割りと同地区内における調査回数を示す。
4. 長岡京跡の条坊名称は、山中章『古代条坊制論』『考古学研究』第38巻第4号(1992年)の復原案に従った。
5. 本書で使用する地形区分は、特に断らない限り「長岡京市域地形分類図」「長岡京市史」資料編一(1991年)によった。
6. 各章(注)に示した報告書のうち使用頻度の高いものは、「長岡京市埋蔵文化財発掘調査資料選」(十)公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター(2018年)に従って略記した。
7. 本書において使用している遺構番号は、長岡京跡に関する調査の場合、調査次数+番号であるが、煩雑さを避けるため、調査次数を省略している。「SD01」の場合、調査次数を冠した「SD ○○○○ 01」が正式な番号である。
8. 本書で使用している方位と国土座標値は、世界測地系の第VI系によっている。
9. 本書の挿図の土層名で〈〉を付けて表示した記号は、「新版標準土色帳」(1997年版)のJIS表記法による土色名である。
10. 遺物写真の一部(図版十二)は、公益財団法人京都都市埋蔵文化財研究所に撮影を依頼した。
11. 本書は、各章は冒頭記載の調査担当者が、付編は金原美奈子氏・金原裕美子氏(一般社団法人文化財科学研究センター)、星野安治氏(独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所)が執筆し、全体の編集は技術補佐員・整理員の協力のもと山下研が行った。

付表-1 本書報告調査地一覧表

調査次数	地区名	所在地	現地調査期間	面積	備考
乙訓寺第28次調査 (長岡京跡右京第1230次)	7AN IHR-13	長岡京市今里三丁目地内	2020年10月12日 ～ 2020年12月2日	145m ²	乙訓寺 今里遺跡
長岡京跡右京第1232次調査	7AN KJS-5	長岡京市天神一丁目212-2	2020年10月19日 ～ 2020年10月30日	33m ²	閑田城ノ内遺跡 十三遺跡
令和元年度詳細分布調査			付表-3 参照		
令和2年度詳細分布調査			付表-4 参照		



第1図 長岡京と調査地の位置 (1/40000)

本文 目 次

第1章 乙訓寺第28次調査概要

—長岡京跡右京第1230次(7AN IHR-13地区)調査—

1	はじめに		1
2	調査経過		2
3	検出遺構		2
4	出土遺物		7
5	まとめ		9

第2章 長岡京跡右京第1232次(7AN KJS-5地区)調査概要

1	はじめに		11
2	調査経過		12
3	検出遺構		12
4	出土遺物		16
5	まとめ		16

付編1 長岡京跡右京第1177次調査出土の礎板及び柱部材の樹種同定

1	はじめに		20
2	試料と方法		20
3	結果		21
4	所見		21

付編2 長岡京跡右京六条三坊三町大型掘立柱建物出土木材の年輪年代調査

1	はじめに		25
2	方 法		25
3	所 見		25

第3章 長岡京市内遺跡詳細分布調査概要

1	はじめに		29
2	調査概要		29
3	主な調査成果		30

図 版 目 次

長岡京跡右京第 1230 次調査

- | | |
|---------------------------------|----------------------------|
| 図版1 (1) 調査区全景 (南西から) | (2) 調査区全景 (南東から) |
| 図版2 (1) 調査区全景 (南西から) | (2) 掘立柱建物 SB04 柱穴断面 (北西から) |
| 図版3 (1) 溝 SD01・土坑 SK02 断面 (北から) | (2) 土坑 SK05・06 (南東から) |
| 図版4 (1) 溝 SD03 検出 (南西から) | (2) 溝 SD07 断面 (南から) |
| (3) 出土遺物 | |

長岡京跡右京第 1232 次調査

- | | |
|---------------------------------|----------------------------|
| 図版5 (1) 調査区全景 1 (西から) | (2) 調査区全景 2 (西から) |
| 図版6 (1) 調査区全景 3 (東から) | (2) 調査区全景 4 (北東から) |
| 図版7 (1) 柱穴 SK01 (北から) | (2) 柱穴 SK01 堆積状況 (北東から) |
| (3) 柱穴 SK01 堆積状況 2 (北西から) | (4) 柱穴 SK01 検出状況 (北から) |
| (5) 柱穴 SK01 柱抜き取り坑 (北東から) | |
| 図版8 (1) 柱穴 SK02 (北から) | (2) 柱穴 SK02 堆積状況 (北から) |
| (3) 柱穴 SK02 堆積状況 2 (北西から) | (4) 柱穴 SK02 検出状況 (北から) |
| (5) 柱穴 SK02 柱抜き取り坑 (北東から) | |
| 図版9 (1) 柱穴 SK03 (北東から) | (2) 柱穴 SK03 柱痕跡検出状況 (北東から) |
| (3) 柱穴 SK03 柱痕跡検出状況 2 (北東から) | (4) 柱穴 SK03 柱痕跡堆積状況 (北西から) |
| (5) 柱穴 SK03 堆積状況 (北西から) | |
| 図版10 (1) 柱穴 SK03 完掘状況 (北東から) | (2) 柱穴 SK03 柱抜き取り坑 (南東から) |
| (3) 柱穴 SK05 (南から) | (4) 柱穴 SK05 柱痕跡 (南から) |
| (5) 柱穴 SK05 検出状況 (西から) | |
| 図版11 (1) 溝 SD04 (上: 南から、下: 北から) | (2) 小穴 P1 (南から) |
| (3) 小穴 P2 (南から) | (4) 小穴 P3 (北から) |
| (5) 調査区堆積状況 (北東から) | |
| 図版12 (1) 出土遺物-1 | (2) 出土遺物-2 |

挿 図 目 次

第 1 図 長岡京と調査地の位置 (1/40000)	iii
長岡京跡右京第 1230 次調査	
第 2 図 発掘調査地位置図 (1/5000)	1
第 3 図 調査区設定図 (1/400)	2
第 4 図 調査区北壁土層図 (1/50)	3
第 5 図 調査区検出遺構図 (1/150)	4
第 6 図 掘立柱建物 SB04 実測図 (1/50)	5
第 7 図 土坑 SK02・05・06、溝 SD01、柱穴 P6 実測図 (1/50)	6
第 8 図 出土遺物実測図 (土器 1/4・瓦 1/6)	8
第 9 図 調査区配置図 (1/500)	9
第 10 図 遺構検出面の土層堆積状況と乙訓寺	10
長岡京跡右京第 1232 次調査	
第 11 図 発掘調査地位置図 (1/5000)	11
第 12 図 調査区検出遺構図 (1/50)	13
第 13 図 調査区土層図・断ち割り断面図 (1/50)	14
第 14 図 遺構断面図 (1/50)	15
第 15 図 出土遺物実測図 (1/2・1/4)	17
第 16 図 調査地周辺図 (1/2000)	19
長岡京跡右京第 1177 次調査出土の礎板及び柱部材の樹種同定	
第 17 図 樹種同定作業工程	20
第 18 図 光学顕微鏡写真 (1)	22
第 19 図 光学顕微鏡写真 (2)	23
第 20 図 対象木材	24
長岡京跡右京六条三坊三町大型掘立柱建物出土木材の年輪年代調査	
第 21 図 長岡京跡右京第 1177 次調査 SB2201 出土木材の年輪年代	26
第 22 図 SB2201 出土木材の顕微鏡写真 (#142)	26
第 23 図 同一材由来と考えられる #140 (破線) と 146 (実線) の年輪曲線	26

第24図 長岡京跡右京第1177次SB2201出土木材	27
第25図 長岡京跡右京第1177次検出遺構図(1/600)	28

長岡市内遺跡詳細分布調査

第26図 第19365次調査地位置図(1/5000)	30
第27図 第19365次調査地全景(北西から)	30
第28図 第19365次調査断面(東から)	30
第29図 第19365次調査出土遺物実測図(1/4)	30
第30図 第19411次調査地位置図(1/5000)	31
第31図 第19411次調査(東から)	31
第32図 第19427次調査地位置図(1/5000)	31
第33図 第19427次調査断面(東から)	31
第34図 第20030次調査地位置図(1/5000)	32
第35図 第20030次調査地掘削(北から)	32
第36図 第20030次調査溝SD01断面(西から)	32
第37図 第20030次調査土坑SK01断面(西から)	32
第38図 第20054次調査地位置図(1/5000)	32
第39図 第20054次調査断面(南から)	32
第40図 第20072次調査地位置図(1/5000)	33
第41図 第20072次調査断面(北から)	33
第42図 第20074次調査地位置図(1/5000)	34
第43図 第20074次調査断面(北から)	34
第44図 第20076次調査地位置図(1/5000)	34
第45図 第20076次調査地全景(南東から)	34
第46図 第20076次調査地断面(北西から)	34
第47図 第20076次調査溝検出(北西から)	34
第48図 第20097次調査地位置図(1/5000)	35
第49図 第20097次調査地全景(北東から)	35
第50図 第20097次調査地全景(北東から)	35
第51図 第20097次調査出土遺物実測図(1/4)	35
第52図 第20139次調査地位置図(1/5000)	36
第53図 第20139次調査地掘削(南東から)	36
第54図 第20139次調査出土遺物実測図(1/4)	36
第55図 第20139次調査出土木製品	36
第56図 第20141次調査地位置図(1/5000)	36

第 57 図 第 20141 次調査土坑検出（北から）	36
第 58 図 第 20166 次調査地位置図（1/5000）	37
第 59 図 第 20166 次調査地全景（北から）	37
第 60 図 第 20166 調査地断面（北から）	37
第 61 図 第 20166 次調査溝 SD01 断面（北西から）	37
第 62 図 第 20166 次調査溝 SD02 断面（北から）	37
第 63 図 第 20166 次調査土坑 SK01 検出（北から）	37
第 64 図 第 20166 次調査出土遺物（1/4）	38
第 65 図 第 20174 調査地位置図（1/5000）	38
第 66 図 第 20174 次調査地全景（南から）	38
第 67 図 第 20174 次調査地全景（南東から）	38
第 68 図 第 20192 次調査地位置図（1/5000）	38
第 69 図 第 20192 次調査地全景（南東から）	38
第 70 図 出土遺物	39

付 表 目 次

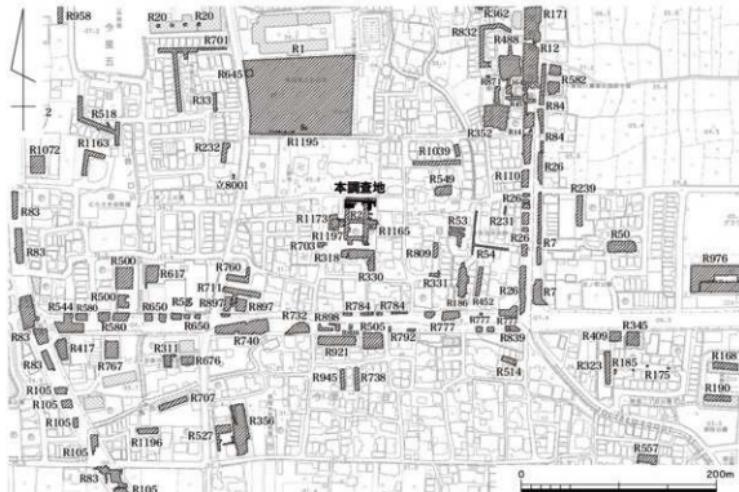
付表-1 本書報告調査地一覧表	ii
付表-2 長岡京跡出土木材における樹種同定結果	23
付表-3 長岡京市内遺跡詳細分布調査一覧表-1（令和元年12月～令和2年3月）	40
付表-4 長岡京市内遺跡詳細分布調査一覧表-2（令和2年4月～11月）	46
付表-5 報告書抄録	57

第1章 乙訓寺第28次調査概要

—長岡京跡右京第1230次（7AN IHR-13地区）調査—

1 はじめに

- 1 本調査は、令和2（2020）年10月12日～12月2日まで、長岡京市今里三丁目地内において実施した、乙訓寺第28次調査（長岡京跡第1230次調査）に関する調査概要である。
- 2 調査は、古代乙訓寺の伽藍配置や関連施設、長岡京造営との関わりについての情報を得る目的で実施した範囲確認調査である。
- 3 調査地は、長岡京右京四条三坊八町および三条大路推定地もあり、旧石器から江戸時代にかけての複合遺跡である今里遺跡にも重複しているため、これらに関わる遺構・遺物の確認も合わせて行った。
- 4 発掘調査は、令和2年度国庫補助事業として長岡京市教育委員会から委託を受けた公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターが実施した。現地調査は、公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター山下研が行った。
- 5 発掘調査にあたっては、乙訓寺関係者各位をはじめ、周辺地権者の方々や関係機関に種々のご理解とご協力を賜った。
- 6 本報告の編集と執筆は山下が行った。



第2図 発掘調査位置図（1/5000）

2 調査経過

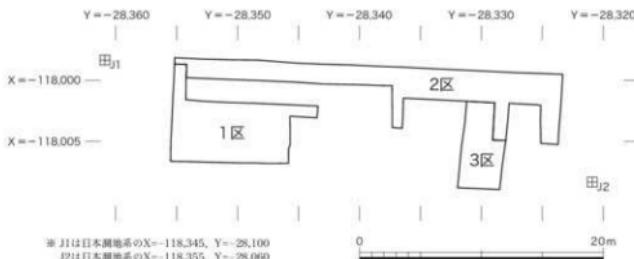
乙訓寺は都名を冠する寺院で、その創建は白鳳期と考えられている。現代の乙訓寺は、元禄期に再興された際の姿を残しているもので、創建時の主要施設の配置や規模などは明らかでない。調査地の現況は駐車場として使用されているが、過去には保育園の園舎が建設されていた。

乙訓寺ではこれまで、古代乙訓寺の中心伽藍や関連施設の確認を目的に、断続的に発掘調査が実施してきた。当地点では昭和 44 (1969) 年の乙訓寺第 2 次調査以降、平成 29 (2017) 年に第 24 次調査⁽¹⁾、平成 30 (2018) 年に第 25 次調査⁽²⁾、令和元 (2019) 年に第 27 次調査⁽³⁾が実施された。これらの調査では弥生時代の周溝墓、土壙墓、古墳時代後期の総柱建物、柵、長岡京期の掘立柱建物、井戸のほか、中世の区画溝などが検出されている。

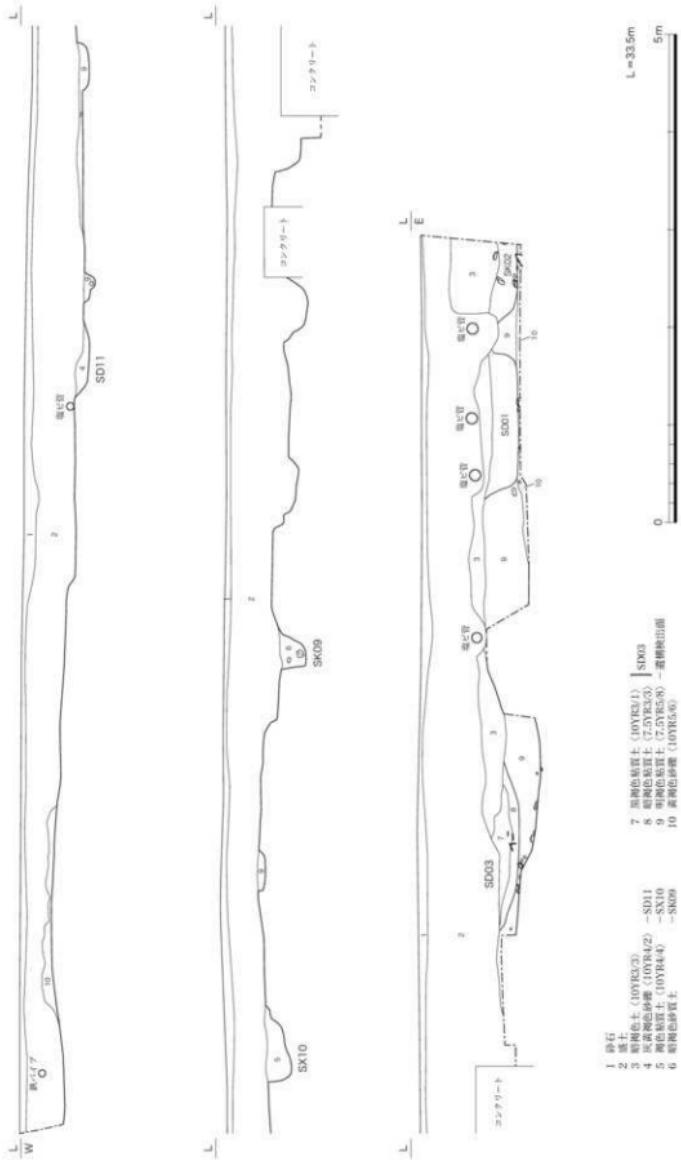
今回の調査は、南北 5m、東西 30m の調査区を設定して西側から重機掘削を開始した。土層の堆積状況は盛土直下が地山の黄褐色砂疊層となっており、遺構・遺物を確認できなかった。10m ほど東へ掘り進めたが堆積状況に変化なく、遺構面は削平されていることが判明したため、重機掘削を中止した。その後、長岡京市教育委員会との協議の結果、新たに調査区を設定することになった。以下、当初の掘削範囲を 1 区、新たに設定した調査区を 2 区と呼称する。2 区は駐車場用地の北端を限る板塀に沿って、幅約 2m の調査区を東西 30m の規模で設定した。2 区の調査では掘立柱建物の一部を検出した。この建物の規模を確認するために調査区の拡張を行い、拡張部分を 3 区とした (第 3 図)。調査は令和 2 年 10 月 12 日に着手した。11 月 17 日に当センター専門委員による現地指導を受け、11 月 19 日には土地所有者に調査の成果を確認いただいた。12 月 2 日には埋め戻しを終え、調査を終了した。

3 検出遺構

基本層序は砕石、盛土下に暗褐色土層、明褐色粘質土層、黄褐色砂疊層の順で堆積する。調査区西半は後世の削平が著しく、盛土の直下で砂疊層となる。第 3 層の暗褐色土層は近世の瓦片を多量に含んでおり、遺構は第 9 層の明褐色粘質土層上面で検出した。

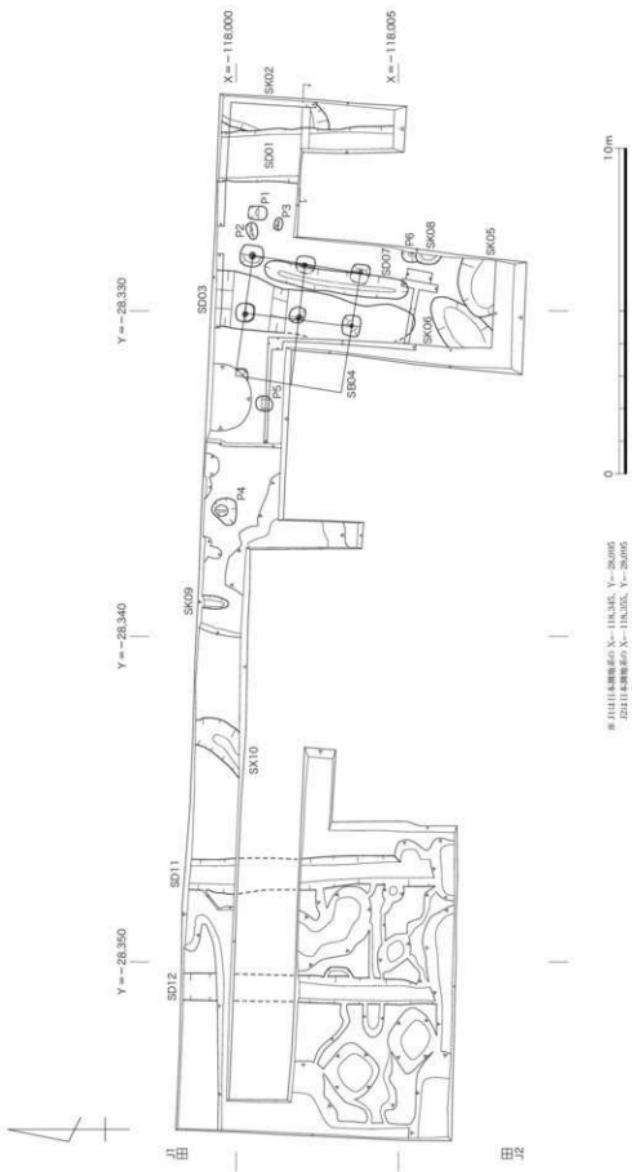


第 3 図 調査区設定図 (1/400)

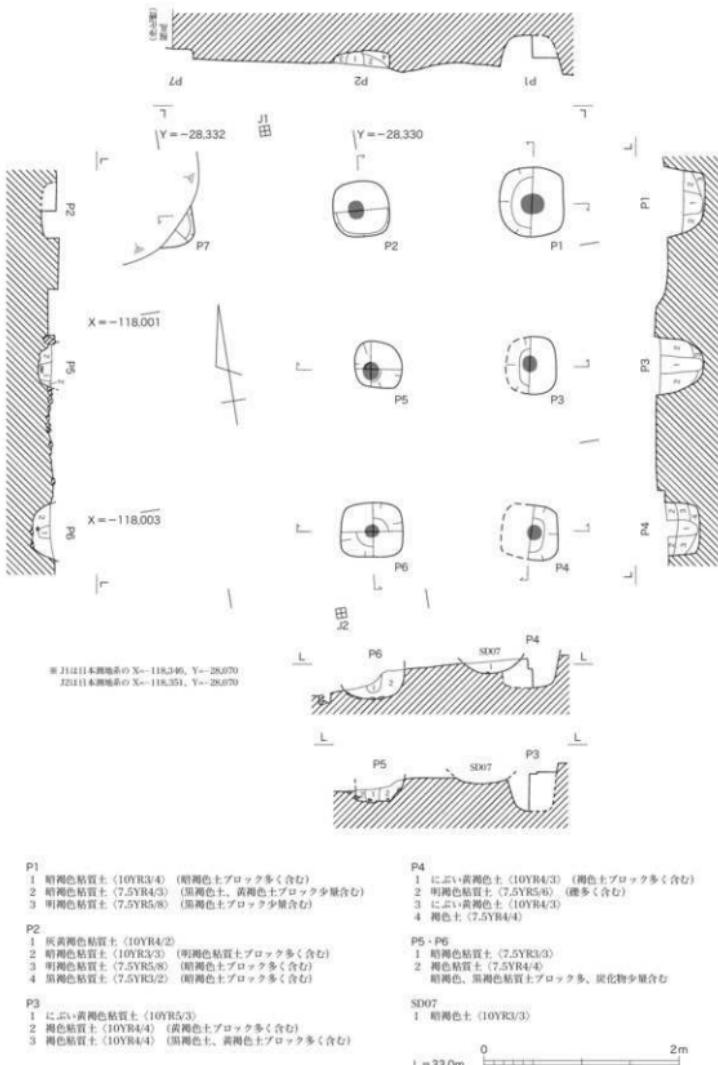


第4図 調査区北壁土層図 (1/50)

4 検出遺構



第5図 調査区検出遺構図 (1/150)



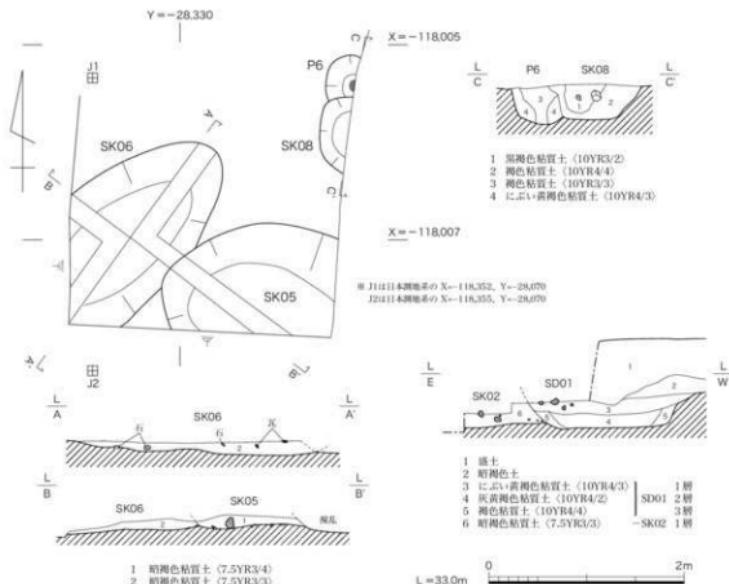
第6図 挖立柱建物 SB04 実測図 (1/50)

掘立柱建物 SB04（第6図） 調査区東端付近で検出した総柱建物である。検出できた範囲では南北2間、東西2間で、北側は調査区外に延びる可能性がある。建物は正方位を指向せず、南北の柱筋はN-9°-Eを示す。柱間寸法は1.7m前後で等間隔に配されている。柱穴の平面形は円形のものと方形のものが認められ、長軸0.5~0.7mを測る。検出面からの深さは後世の削平のため深浅に差が生じているものの、底面標高は32.3~32.4mの範囲に収まっている。ほぼすべての柱穴で柱痕が認められ、直径0.2m程度の円形であった。遺物は柱穴の掘形から古墳時代の須恵器杯、埴輪の破片が少量出土した。出土遺物から、古墳時代以降の構築と考えられる。

土坑 SK02（第4・5図） 調査区東端で検出した梢円形の土坑である。西は溝SD01に切られ、北・東は調査区外へ広がるため、全形は不明である。南北3.3m、深さは0.5mを測る。遺物は古代の土師器、瓦が出土した。

土坑 SK05・06（第7図） 3区南端で検出した土坑である。削平のため明らかではないが、平面形は梢円形や円形を呈するものと考えられる。SK05は長軸1.8m以上、SK06は長軸2.3m以上で、深さはいずれも0.1~0.4mを測る。遺物は土師器の細片や古代の須恵器、瓦が出土した。

土坑 SK08（第7図） 3区の東端で検出した。埋土第1層は黒褐色粘質土で、弥生時代の溝SD03と同質である。遺物は弥生時代の土器が出土した。



第7図 土坑SK02・05・06、溝SD01、柱穴P6実測図(1/50)

土坑 SK09 (第5図) 2区中央で検出した土坑で、北側は調査区外へ延びる。埋土は第3層の暗褐色土であることから、近世以降の構築と推測する。遺物の出土はない。

溝 SD01 (第5・7図) 調査区西端で検出した中世の溝で、土坑 SK02 を切って構築されている。南北方向に延び、幅1.6m、深さは0.34mを測る。方向や規模から、乙訓寺第24次調査で検出された溝に接続するものとみられ、区画溝と考えられる。遺物は土師器、瓦器などが出土した。

溝 SD03 (第4・5図) 南北方向に延びる弥生時代の溝で、幅約1.7m、深さは0.3mである。調査区北端付近で土器がまとまって出土した。

溝 SD07 (第5・6図) 溝 SD03 に近接して南北に延びる近世の溝である。幅0.7m、長さ4.5mで、深さは0.26mを測る。瓦片が多量に出土した。

溝 SD11・12 (第5図) 調査区西端付近で検出した南北方向に延びる溝である。出土した瓦などから、近世以降の構築と考えられる。

柱穴・小穴 (第5・7図) 6基の柱穴・小穴を検出した。P1～5は埋土が溝 SD01 と近似している。P6は柱痕とみられる土層が認められるため、柱穴と考えた。P6は土坑 SK08 に切られることから、弥生時代以前に位置付けられ、他の小穴は中世以降と推測する。

4 出土遺物

遺物は近世、中世、古代、古墳時代、弥生時代の遺物が出土した（第8図）。土器はいずれも小片で、器種や時期の特定が困難なものが多い。以下、時期ごとにまとめて記述する。

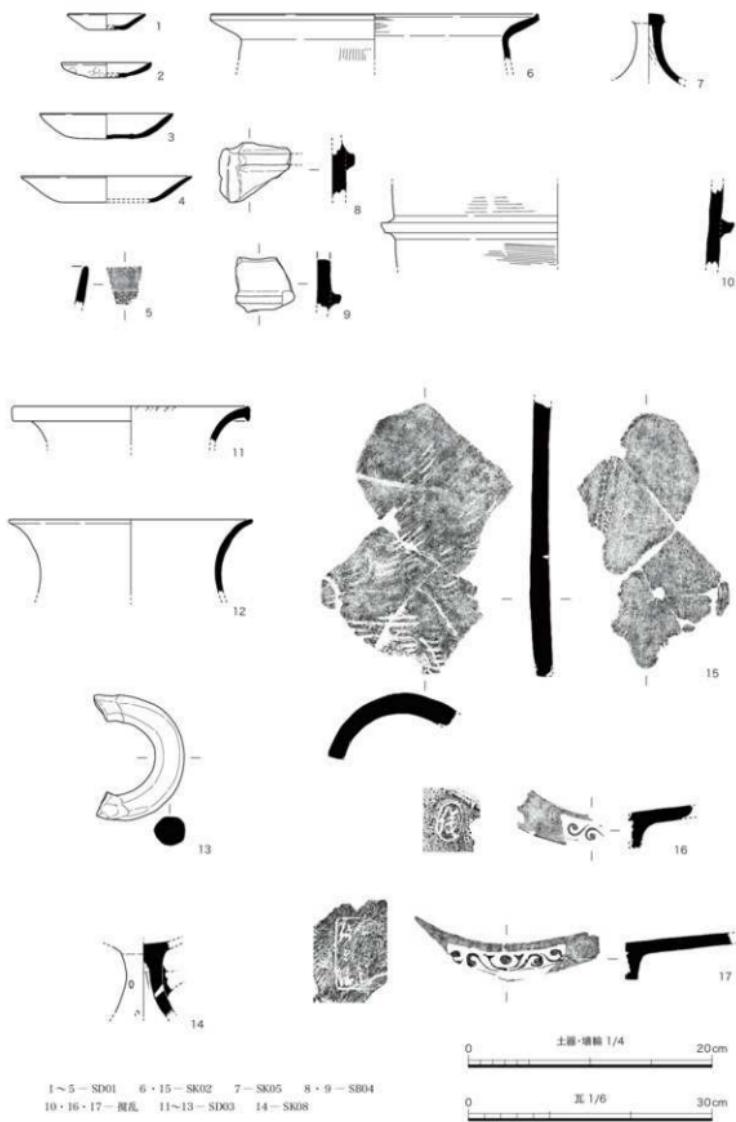
近世の遺物 撤乱で出土した軒平瓦を2点（16・17）図化した。いずれも瓦当に刻印が認められる。16は楕円形の区画内に「儀」の文字が認められる。17は長方形の区画内に2行にわたって文字が刻まれている。不明瞭ではあるが、これまでの調査で数点確認されている「奥海寺院儀兵衛」とみられる。

中世の遺物 1～5は溝 SD01 で出土した。1～4は土師器の皿である。1・2は口径7cm前後で、胎土は橙色を呈する。3は口径11cm、4は口径14cmを測り、胎土は灰白色である。3の底部内面には円形の緩い段が認められる。5は瓦質の口縁部片で、器種は鉢であろうか。外面には横位の沈線と菱形のスタンプ文が認められる。

古代の遺物 6は土坑 SK02 で出土した土師器の甌、7は土坑 SK05 で出土した須恵器の高杯である。15はSK02で出土した丸瓦で、凸面に平行叩き、凹面に布目压痕が認められる。

古墳時代の遺物 8～10は円筒埴輪である。8・9は掘立柱建物 SB04、10は撤乱で出土した。8は突帯と直交する剥離痕が認められ、剥離面には線状の刻みが施される。鰐が剥落したものであろう。9は黒斑が認められる。上部端面は破断面でないため、方形の透かし孔の可能性がある。

弥生時代の遺物 11～13は溝 SD03 でまとめて出土した。11・12は壺、13は水差形土器の把手とみられる。櫛描波状文が施された体部片と共に出土したことから、弥生時代中期に位置付けられよう。14は土坑 SK08 で出土した台付鉢である。縦方向に把手が付き、脚台には斜め上方から上下2列の穿孔が施される。穿孔は上部に5か所、下部には少なくとも2か所が確認



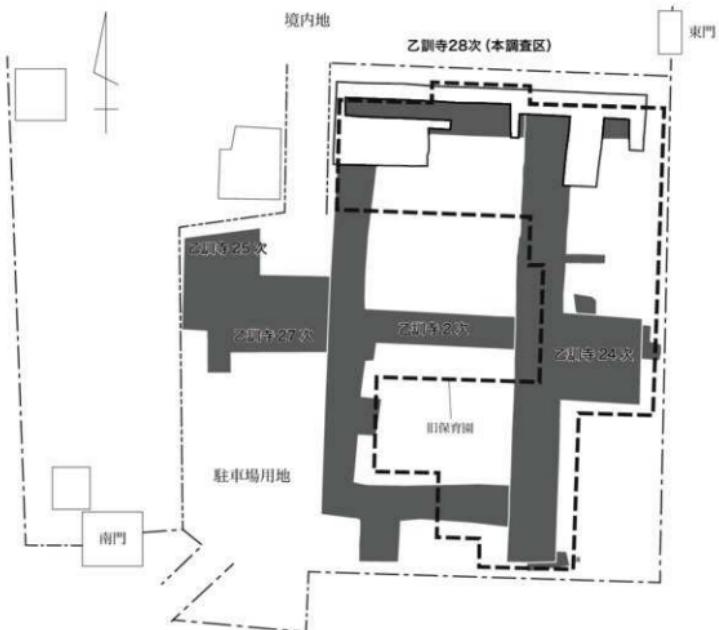
第8図 出土遺物実測図（土器 1/4・瓦 1/6）

できる。そのうちの一つは未貫通である。弥生時代中期、または後期の所産である。

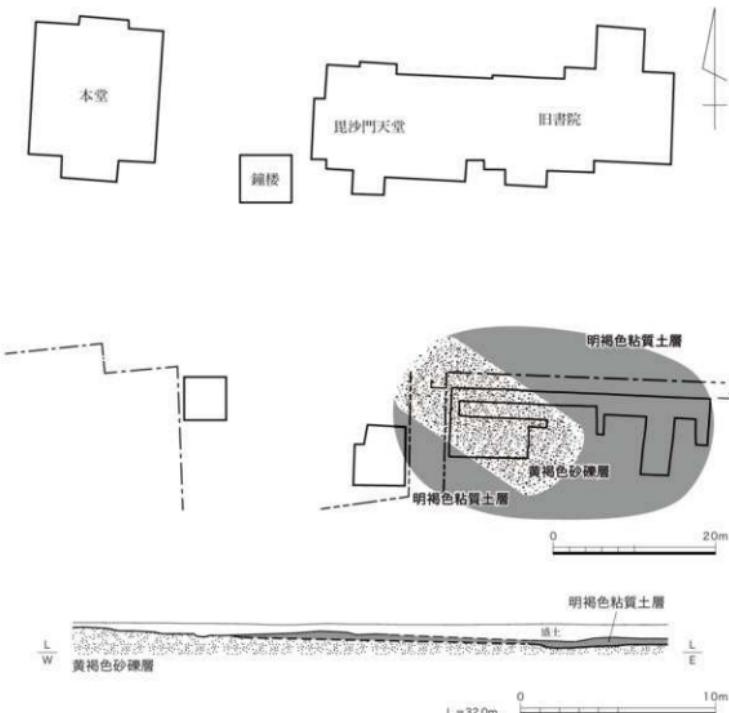
5 まとめ

今回の調査では、弥生時代や古墳時代の今里遺跡に関する成果が得られたものの、古代乙訓寺に関連する施設の検出には至らなかった。遺構面は大きく削平されており、特に調査区西半が著しい。盛土を除去した段階で、遺構検出面である明褐色粘質土層は失われ、下位の黄褐色砂礫層が露出していた。調査地の駐車場用地はかつて保育園が運営されており、その建設や解体時の掘削によって、遺跡は大きな影響を受けたものと考えられる。本調査の結果、相対的に遺構面が高く、境内地に近い北側ほどその影響が顕著になることが明らかとなった。駐車場用地では、第25・27次調査で碎石下に近世の整地層が確認されたことから、遺跡が良好に保存されているのは、保育園園舎の跡地に該当しない西端の一画のみと考えられる。同調査では、長岡京期の柱穴や土坑のまとまりが検出されており、何らかの構造物が存在した可能性が高い。この構造物の規模や形状を把握することが、今後の調査での課題となろう。

乙訓寺は、東の低地から崖を上った一段高い段丘上に立地している。今回の調査では、明褐色粘質土層の上面で遺構を確認できたが、2区の西半ではこの粘質土層を確認できなかった。1



第9図 調査区配置図 (1/500)



第10図 遺構検出面の土層堆積状況と乙訓寺

区では、ほぼ全面が下位層の黄褐色砂礫層であったが、南西隅で明褐色粘質土層を確認している。土層断面の観察では、黄褐色砂礫層は2区西端で最も高く、東へ向けて低くなる。その上には明褐色粘質土層が堆積し、東側ほど厚く堆積する。遺構確認面での黄褐色砂礫層と明褐色粘質土層の分布を示したのが第10図である。黄褐色砂礫層は北西-南東の方向に広がっていることを確認できる。本来、この砂礫層は明褐色粘質土層で覆われていたと考えられ、周囲よりも若干高い微高地を形成していたであろう。この微高地を北西方向に延長すると、現在の乙訓寺本堂の位置にある。こうした状況から、寺院の中心的施設である本堂は、段丘上の安定した地盤のなかでも、わずかな高まりを意図的に選択して配置された可能性が指摘できよう。

注1) 大高義寛「乙訓寺第24次調査概要」『長岡市報告書』第71冊 2018年

2) 福家恭「乙訓寺第25次調査概要」『長岡市報告書』第72冊 2019年

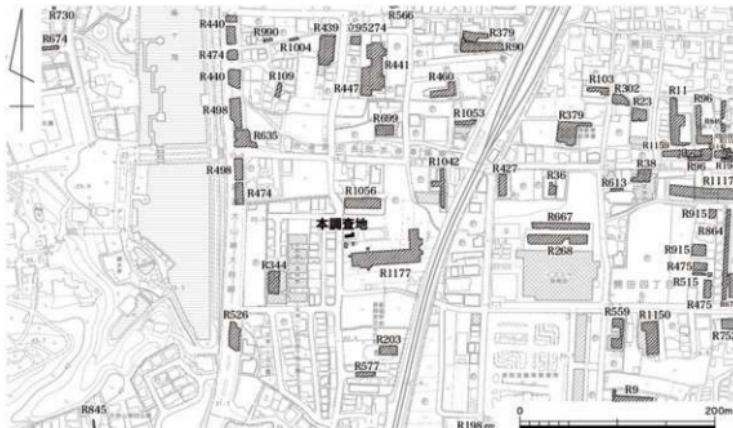
3) 福家恭「乙訓寺第27次調査概要」『長岡市報告書』第74冊 2020年

第2章 長岡京跡右京第1232次(7ANKJS - 5地区)調査概要

—長岡京跡右京六条三坊三町、十三遺跡・開田城ノ内遺跡—

1 はじめに

- 1 本調査は、令和2（2020）年10月19日～10月30日まで、長岡京市天神一丁目212-2において実施した、長岡京跡右京第1232次調査に関する調査概要である。
- 2 調査は、長岡京跡における極めて重要な土地において、開発行為が計画されたことを受けて遺跡の構造明解を目的として実施した範囲確認調査である。
- 3 調査区は、対象地の南端に東西10m、南北3mを設定して調査を開始し、一部拡張を行った結果、総面積は約33m²の規模となった。
- 4 調査地は、西二坊大路に面する長岡京跡右京六条三坊三町にあたり、西三坊坊間東小路推定地や旧石器～縄文時代の十三遺跡、複合遺跡の開田城ノ内遺跡も重複する。しかし、開発行為が、遺構面に達しない基礎構造であることから、調査は長岡京期に関わる遺跡の確認・保護に努めるために、下層の遺構の調査は留保した。
- 5 発掘調査は令和2年度国庫補助事業として長岡京市教育委員会から委託を受けた公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターが実施した。現地調査は、長岡京市教育委員会の指導・監督の下、公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター中島哲夫が行った。
- 6 発掘調査にあたっては、関係者各位をはじめ、周辺地権の方々や関係機関に種々のご理解とご協力を賜った。
- 7 本報告の執筆と編集は長岡京市教育委員会福家恭が行った。



第11図 発掘調査位置図 (1/5000)

2 調査経過

本調査は、南側に隣接する病院建設工事に先立って実施された長岡京跡右京第 1177 次調査において、長岡京造営に重要な関わりをもつ大型建物が検出されたことを受け、その周辺施設等の有無や構造を解明することを目的として実施した。

右京第 1177 次調査では、長岡京跡で最大規模の建物に用いられる 10 尺等間の柱列で構成される南北に長い大型建物が検出された。建物は西側に庇をもつ構造で、その配置は長岡京跡右京六条三坊三町の南西端にあたることから、2 町以上を占有する規模の施設の可能性が想定された。

また、南北方位の大型建物を脇殿に相当すると推定した場合、主殿となる別の建物が北西側に配置されている可能性が高いと推定されたことから、右京第 1177 次補足調査第 2・3 トレント(12)において調査を行ったが、その存在を確認できなかつた。

そのため、主殿となる遺構は、さらに北側に位置する当地に存在する可能性があると判断し、土地所有及び関係者の同意を得て、調査を実施することになった。

なお、現地調査は令和 2 年 10 月 19 日から重機掘削を開始し、10 月 29 日に調査・埋め戻しを完了させ、全ての作業が終了したのは 10 月 30 日であった。

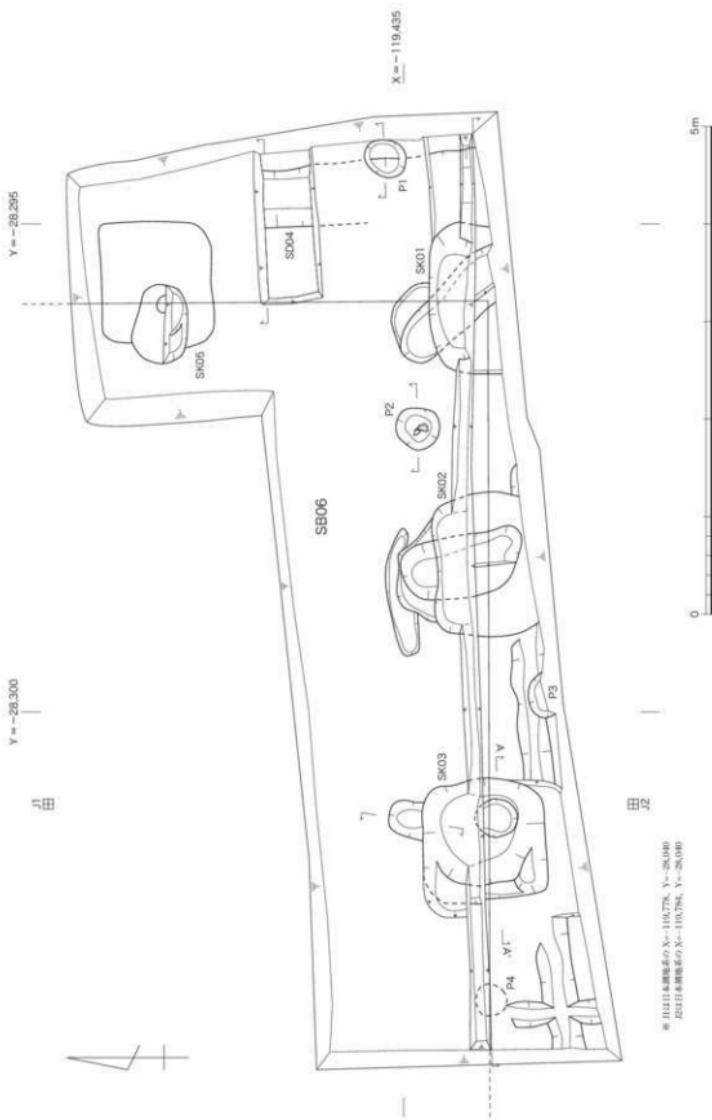
3 検出遺構

基本層序（第 13 図） 調査地の基本層序は、駐車場に伴う造成土を除去すると、耕作土・床土が堆積しており、比較的良好な状態で遺跡を確認できた。耕作土・床土の下層には中世遺物を含む灰褐色砂質シルト層（包含層 I）があり、この上面及び黒褐色粘質シルト層（包含層 II）上面に瓦器を含む素掘溝が東西 3 条以上、南北 2 条以上掘られている。包含層 II 以下は、灰褐色砂質シルト層（10 層・包含層 III-1）、または赤黒色砂礫層（12 層・包含層 III-2）が長岡京期の遺構面となる。また、黒色粘質シルト層（13 層・包含層 III-3）も面的な堆積が推定され、12 層と共に長岡京期の遺構が掘り込まれることから、10・12・13 層を包含層 III として調査を行つた。

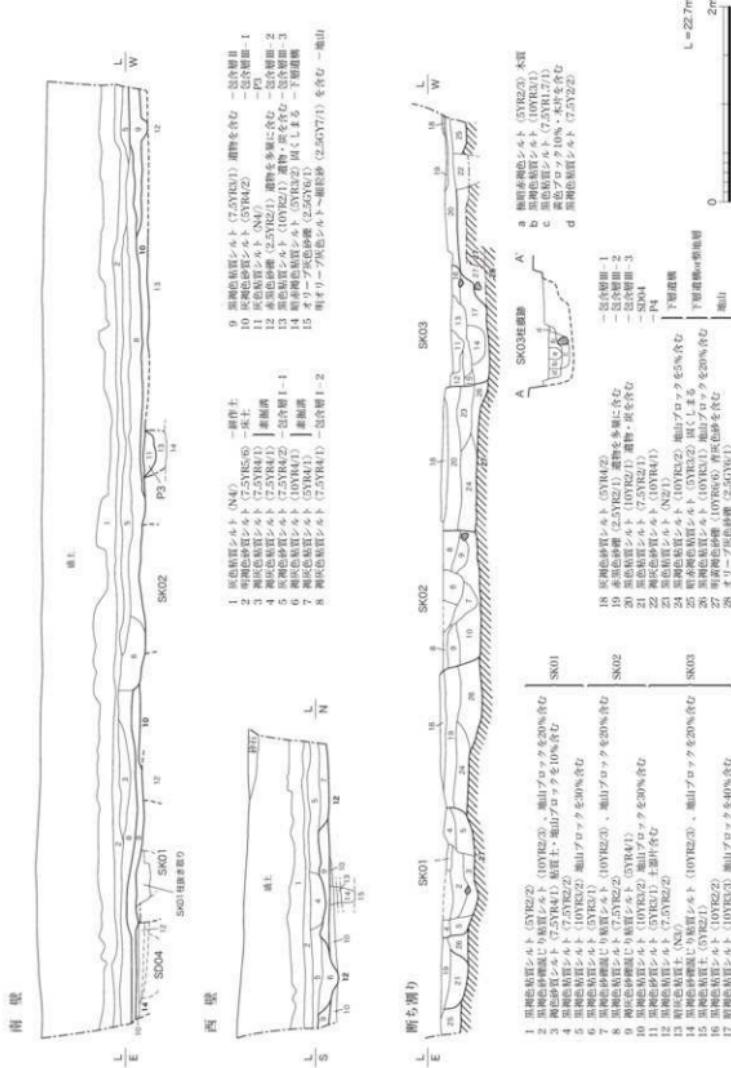
なお、断ち割り調査によって、この付近の地山はオリーブ灰色砂礫層（15 層）であることを確認しております、包含層 III と地山までの間には、長岡京期以前の遺構群も存在するようである。また、東側の地山面の方が高いことが判明しており、包含層 III は傾斜する旧地形や下層遺構群を埋める整地土の可能性がある。

検出遺構（第 12 図） 今回の調査で検出された主な遺構は、長岡京期の掘立柱建物 1 棟、小穴 4 基、溝 1 条である。その他、時期は不明であるが、下層にも複数の遺構が存在するが、長岡京期の遺構面を保存するため、部分的な断ち割りにより存在を確認するに留めた。

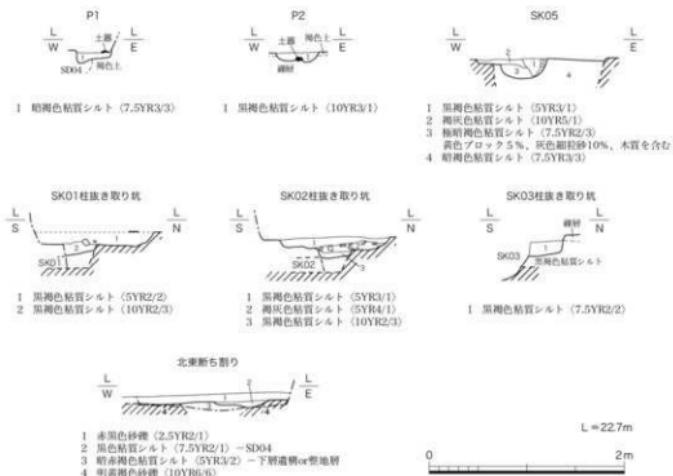
掘立柱建物 SB06 調査区の南寄りの地点で、東西 1.2 ~ 1.4m、南北 0.8 ~ 1.0m の規模をもつ隅円方形の柱掘形 SK01 ~ 03 が検出された。いずれも抜き取り坑が中心付近に向かって接続しており、西端に位置する SK03 には径約 0.4m の柱当たりが残存した。柱列は東西に 2.65m



第12回 調査区検出遺構図 (1/50)



第13図 調査区土層図・断ち割り断面図（1/50）



第14図 遺構断面図 (1/50)

(9尺) 等間で3基が並ぶ。また、東端のSK01から北に3.3m(11尺)の位置にSK05が検出された。これらは正方位を指向した柱列で、同一の建物に伴うものと推定され、東西3間以上、南北2間以上の大型建物に復元できる。柱穴はいずれも包含層III上面から掘削されており、埋土もほぼ同様の堆積と言える。方形の柱掘形を掘削後、柱の高さを合わせるためにオリーブ灰色砂礫(地山)ブロックが混じる土(第13図5層: SK01、10層: SK02、17層: SK03)である程度埋めている。これは右京第1177次調査で検出された大型建物SB2201の身舎柱穴最下層埋土の在り方と類似する。上層は黒褐色粘質シルトで柱を埋めており、柱痕跡には木質を含む極暗赤褐色シルト～黒褐色粘質シルトが堆積する。最上層は抜き取り坑の影響で乱れているが、瓦や土器が投棄された状況は確認できなかった。しかし、SK03は掘形南壁面に張り付くように砾石(9)、上層埋土中に粘板岩(10)が出土している。

また、SB06の柱抜き取り坑はSK01～03が北側から、SK05は西側から掘削されている。右京第1177次調査のSB2201の棟持柱の抜き取り坑は、建物の内側となる南側から掘削されており、今回検出したSK05を棟持柱とするならば、抜き取り坑の状況は類似していると言えるだろう。

小穴P1～4 いずれも径0.3～0.4m程度の規模であるが、SB06の柱列の間で検出された点は注目できる。P1は須恵器甕片、P2は布目瓦片を伴い、P1～3は赤黒色砂礫層(包含層III-2)の上面から掘削されている。一方、P4は包含層IIIの下層に位置しており、他の3基とは時期が異なる可能性がある。

溝SD04 調査区の東端を南北に走る長さ4m以上の溝である。幅は0.5m前後であるが、深さは調査区の南北で異なり、北側(北東断ち割り付近)では0.05m、南端では0.25mとなる。

長岡京期の遺物を含む赤黒色砂礫層（第13図12層・包含層III-2）より下層に位置し、P1の底面でも確認することができる。つまり、SD04の埋没、及び周辺の面的な削平を受けた後に包含層IIIによる整地が行われた可能性を示唆している。また、SD04は、右京第1177次調査SD2073及び同補足調査SD5003の延長上に位置し、同一の溝の可能性が高い。その検出位置は西三坊坊間東小路東側溝の推定地ラインに近似するものの、やや東側に位置する。

4 出土遺物

本調査では中世から長岡京期を主体とした土師器、須恵器、瓦器、土馬、瓦などの遺物が整理箱2箱分出土した。その内、包含層IIIよりも上層の埋土からは、中世遺物が多く出土しているが、今回は長岡京期の遺構に関連する遺物を中心に実測可能であった14点を報告する（第15図）。

1は貼り付け高台をもつ須恵器杯Bの底部片で、底径は13.0cmを測る。2の須恵器壺Kは肩が角張るような形状を呈し、最も張り出した部に沈線を施す長頸壺である。3は古墳時代の須恵器脚付壺の脚部であり、口縁部には沈線が巡り、端部を垂下させる。破片の両端には面が残存しており、方形の透かし穴を三方に設ける形状と考えられる。4は土馬頭部の一部である。5・6は平瓦、7は丸瓦で、いずれも凹面に布目、凸面に網目タタキ痕を残す。

8の鉄滓は、タテ4.3cm、ヨコ4.2cm、厚さ2.0cm、重さ60gを測る。9の砥石は平坦な面に削痕が残り、きめ細かな面が形成されている。側面にも削痕が部分的に見られるが、主体的な使用面ではないと考えられる。10は粘板岩片であり、その形状は弥生時代の石剣などに近い形状を呈することから未成品の可能性がある。

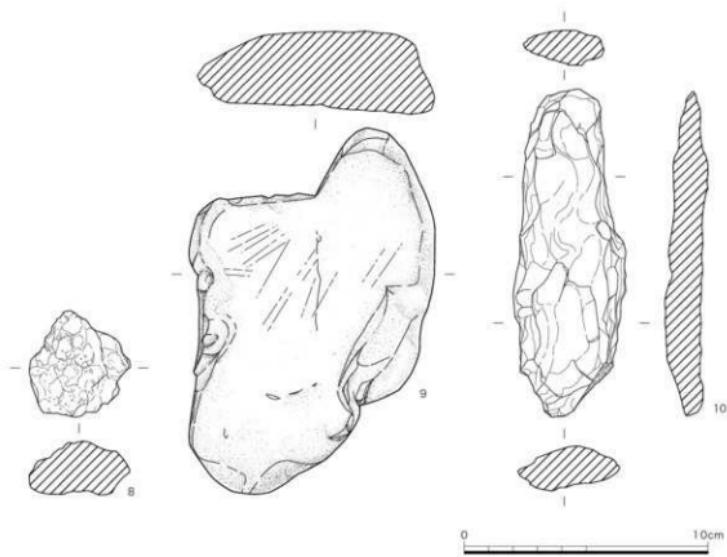
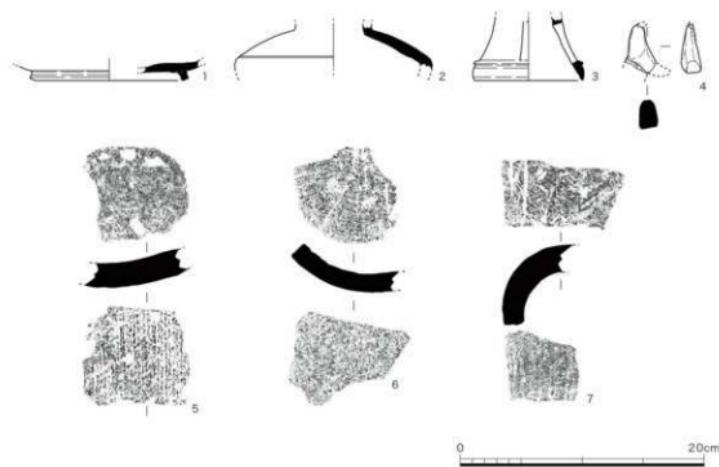
5まとめ

今回の調査により、長岡京期の未知の施設であった右京第1177次調査の遺跡群に続き、付随する大型建物の存在を確認する成果が得られた。

本調査では、柱掘形が一辺1mを超える柱穴をもつ大型掘立柱建物SB06が検出され、その構造は右京第1177次調査で検出された大型掘立柱建物に類似するものであった。柱間は10尺等間で構成されたものではなく、東西9尺の規格を呈する。これは、当初想定していた右京第1177次調査の大型掘立柱建物を脇殿とする構造に対応する主殿としては小規模となる。

しかし、今回検出されたSB06の柱穴SK05は、R1177SB2201の中心から北へ約25.5m(85尺)に位置する。これはR1177SB2201身舎の中軸と築地状の区画R1177SA2205の中軸、さらにR1177SB2202の中軸までの距離と同様の距離である。つまり、SB06も同町域でこれまで確認されている構造物と同様に、計画的に配置された建物の一つである可能性は極めて高いと言える。

また、右京第1177次SD2073と右京第1177次補足SD5003は、南北方位を指向する溝で、最北端はY=-28033.9(旧座標)に位置する。今回検出した溝SD04の南端はY=-28,033.6(旧座標)にあり、同一のものと考えられる。一方、溝底面の標高は南端で22.3mを測り、SD5003



第15図 出土遺物実測図 (1/2・1/4)

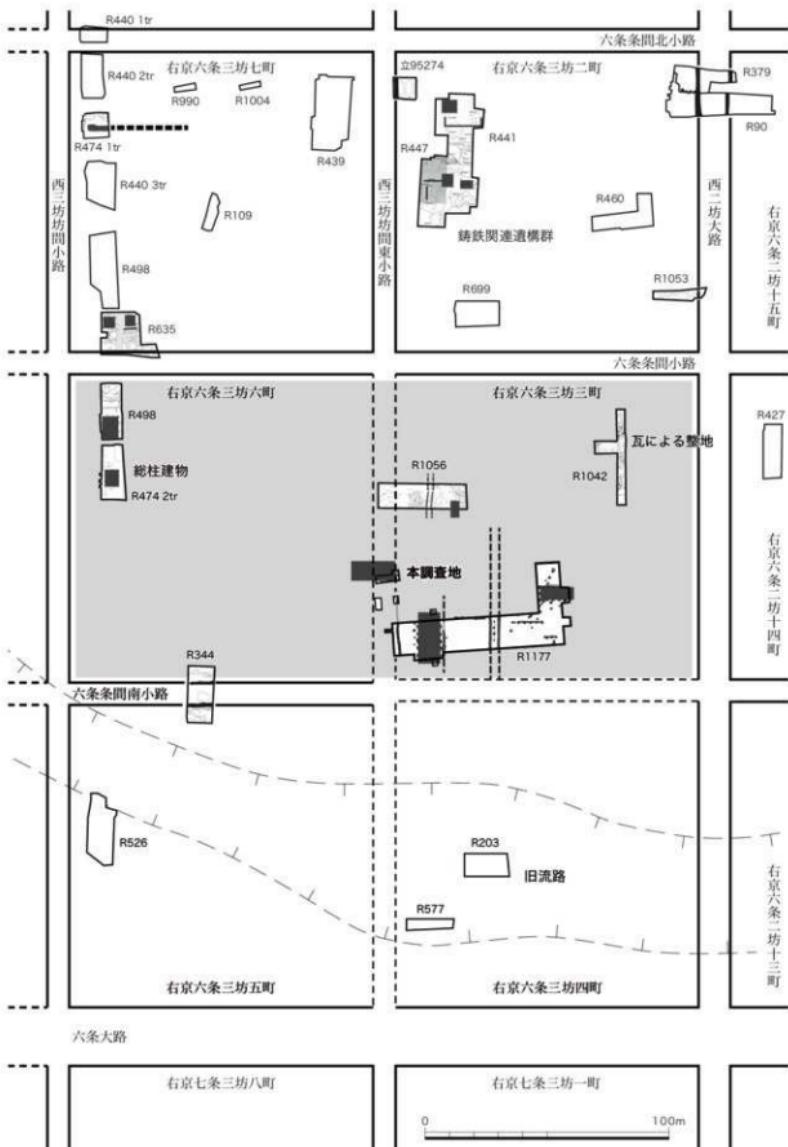
北端（L = 22.0m）とは約0.3mの高低差があり、SD04北端はさらに約0.2m程度高い。これはSD2073の南端底面（L = 21.6m）と比べると約1.1mの高低差があることになり、南北溝は南へ傾斜する本来の地形に対応するように掘削されている。

つまり、溝SD04が建物SB06の築造段階の整地によって埋没・削平されたのであれば、右京六条三坊三・六町城は、周囲よりも高い地形となる本調査地付近を中心に、しかも長岡京期後半段階に大規模な再造造成が行われた可能性があるだろう。

今後も長岡京跡の構造解明に向けて調査を継続的に実施していくことが、遺跡保護の一助になれば幸いである。

注1) 福家 勝「長岡京跡右京第1177次調査概報」『長岡京市センターワーク』平成30年度 2020年

2) 福家 勝「長岡京跡右京第1177次補足調査概要」『長岡京市報告書』第74冊 2020年



第16図 調査地周辺図 (1/2000)

付編1 長岡京跡右京第1177次調査出土の礎板及び柱部材の樹種同定

一般社団法人 文化財科学研究センター

金原美奈子 金原裕美子

1 はじめに

本報告は、長岡京跡より出土した木製品に対する樹種同定による分析結果である。分析は、令和元年度に実施し、遺跡より出土した木製品に対して、木材組織の特徴から樹種同定を行った。

木製品の材料となる木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、木材構造から概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であるが、木製品では樹種による利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

2 試料と方法

試料は、調査次数R1177のKJS-4地区の柱穴より出土した礎板、部材、柱材である。なお、礎板は柱の転用材である。試料の詳細は結果表に記す。

方法は、試料からカミソリを用いて新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、切片をマウントクイックアクエオス（Mount -Quick“Aqueous”：大道産業）で封入し、プレパラートを作製する。観察は生物顕微鏡（OPTIPHOTO-2:Nikon）によって40～1000倍で行った。同定は、木材構造の特徴および現生標本との対比によって行った。



1 サンプリング



2 同定作業

第17図 樹種同定作業工程

3 結果

付表-2に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

・ヒノキ *Chamaecyparis obtuse* Endl. ヒノキ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞が見られる。放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で1分野に2個存在する。放射組織は単列の同性放射組織型で、1~15細胞高である。

以上の特徴からヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ40m、径1.5mに達する。

4 所見

同定の結果、長岡京跡の木製品はいずれもヒノキであった。

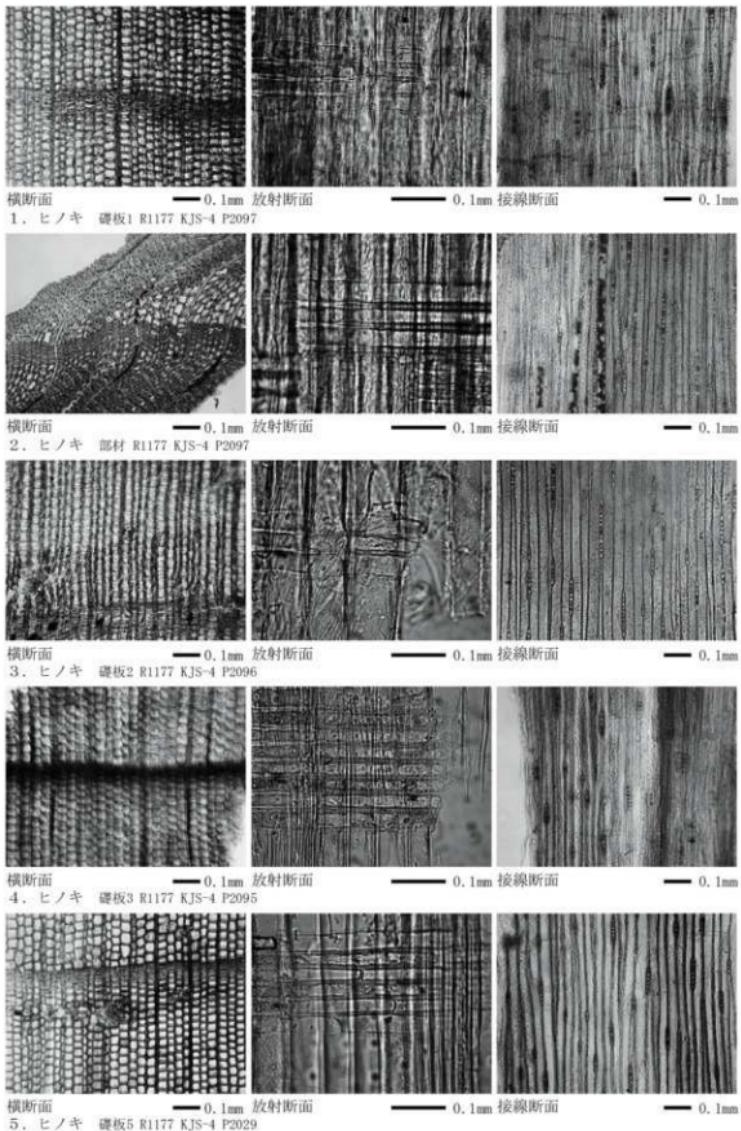
ヒノキは木理通直、肌目緻密で強韌であり、耐朽・耐湿性も高く、特に保存性の高い材である。加工工作が容易な上、建築材はもとより板材や小さな器具類に至るまで幅広く用いられる。本遺跡の試料はほとんどが礎板であるが礎板は柱の転用材である。ヒノキ材は古墳時代以降になると多用され、律令期以降に頻繁に流通すると考えられる。平城京や各地の役所などに設置された施設の建築部材にもヒノキが利用されており、大分県の長者屋敷官衙遺跡の正倉は、焼失したため途中で用材が変わるが、九州ではあまり用いられないヒノキを柱材に利用し創建されたと示唆されている。また、『日本書紀』では、素盞鳴尊の説話に、「檜は以て瑞宮（宮殿）を為る材にすべし」とされ、宮殿を营造するための用材にヒノキ材が推奨されていたことがわかる。そのほか『古事記』では上流階級の邸宅にヒノキが利用されていたことがわかる。

本遺跡で同定されたヒノキは温帯を中心に分布する常緑高木で、特に温帯中部に多い樹木である。適應性であるが乾燥した環境にも耐え、尾根、急峻地または岩盤上にも生育する。流通により本遺跡にもたらされたと推定される。

参考文献

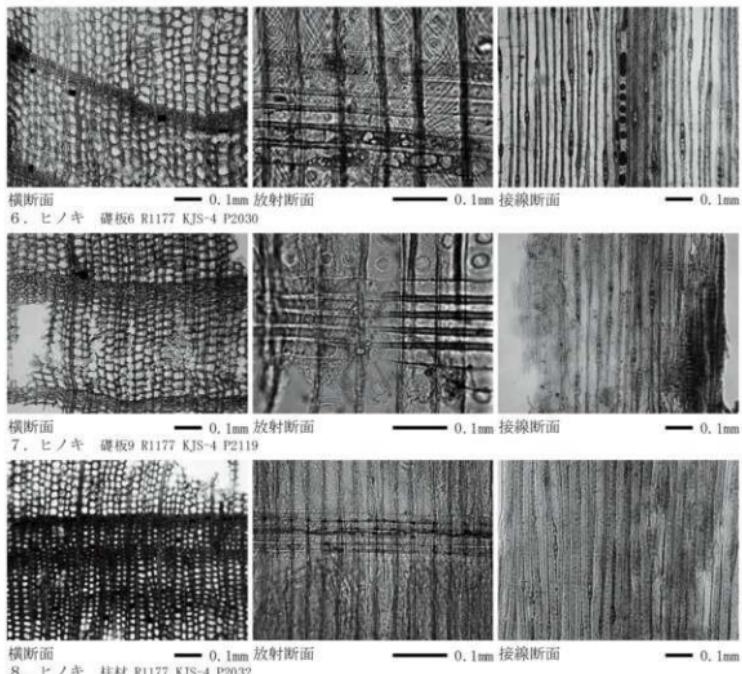
- 伊東隆夫・山田昌久（2012）木の考古学、雄山閣、p.449.
- 佐伯 浩・原田 浩（1985）針葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p.20-48.
- 佐伯 浩・原田 浩（1985）広葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p.49-100.
- 島地 謙・伊東隆夫（1982）図説木材組織、地球社、p.176.
- 島地 謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧、雄山閣、p.296.
- 古環境研究所（2015）長者屋敷官衙遺跡における樹種同定、長者屋敷官衙遺跡4~11次調査、中津市文化財調査報告第73集、中津市教育委員会、p.33-37.
- 山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成、植生史研究特別第1号、植生史研究会、p.242.

長岡京跡の木材 I



第 18 図 光学顕微鏡写真 (1)

長岡京跡の木材 II



第19図 光学顕微鏡写真（2）

付表-2 長岡京跡出土木材における樹種同定結果

番号	名称	調査次数	出土地区	出土遺構	結果(学名/和名)
1	礎板1	R1177	KJS-4	P2097	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
2	部材	R1177	KJS-4	P2097	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
3	礎板2	R1177	KJS-4	P2096	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
4	礎板3	R1177	KJS-4	P2095	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
5	礎板5	R1177	KJS-4	P2029	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
6	礎板6	R1177	KJS-4	P2030	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
7	礎板9	R1177	KJS-4	P2119	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
8	柱材	R1177	KJS-4	P2032	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ

長岡京跡出土木材

番号 1 諸板 1 R1177 KJS-4 P2097
Chamaecyparis obtusa Endl. ヒノキ



長さ(cm)	45.9
幅(cm)	29.8
厚さ(cm)	5.3
重量(kg)	6.41

番号 2 諸板 2 R1177 KJS-4 P2097
Chamaecyparis obtusa Endl. ヒノキ



長さ(cm)	20.4
幅(cm)	10.5
厚さ(cm)	7.5
重量(kg)	1.62

番号 3 諸板 2 R1177 KJS-4 P2096
Chamaecyparis obtusa Endl. ヒノキ



長さ(cm)	38.0
幅(cm)	28.2
厚さ(cm)	5.1
重量(kg)	4.85

番号 4 諸板 3 R1177 KJS-4 P2098
Chamaecyparis obtusa Endl. ヒノキ



長さ(cm)	43.0
幅(cm)	29.0
厚さ(cm)	5.5
重量(kg)	5.92

番号 5 諸板 5 R1177 KJS-4 P2029
Chamaecyparis obtusa Endl. ヒノキ



長さ(cm)	39.9
幅(cm)	28.8
厚さ(cm)	4.8
重量(kg)	5.6

番号 6 諸板 6 R1177 KJS-4 P2030
Chamaecyparis obtusa Endl. ヒノキ



長さ(cm)	33.7
幅(cm)	26.0
厚さ(cm)	5.4
重量(kg)	4.0

番号 7 諸板 9 R1177 KJS-4 P2119
Chamaecyparis obtusa Endl. ヒノキ



長さ(cm)	40.0
幅(cm)	32.0
厚さ(cm)	5.7
重量(kg)	5.03

番号 8 柱材 R1177 KJS-4 P2032
Chamaecyparis obtusa Endl. ヒノキ



長さ(cm)	57.4
幅(cm)	8.0
厚さ(cm)	5.5
重量(kg)	1.03

第20図 対象木材

付編2 長岡京跡右京六条三坊三町大型掘立柱建物出土木材の年輪年代調査

独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所

星野 安治

1 はじめに

長岡京跡右京六条三坊三町の南西部において検出された長岡京期と考えられている大型掘立柱建物 SB2201 から出土した礎板及び加工木材について、年輪年代調査を実施した成果を報告する。この建物は、南北 7 間、東西 2 間の母屋に西面庇が付属する長岡京でも最大級の建物である。⁽¹⁾ また、宮城などでしか出土していない「旨」の刻印を持つ瓦の出土や、宅地が 2 町以上の規模であつたとみられ、離宮などの重要施設があったと考えられている。調査対象は、長岡京市立埋蔵文化財調査センターにおいて水浸状態で保管されていた長岡京跡右京第 1177 次調査出土木材について、肉眼で年輪数の多寡を観察し、年輪数が多いと判断された 13 点を選別した。これらは、いずれも大型掘立柱建物 SB2201 の身舎に相当する柱穴から出土した礎板および加工木材で、建物用に持ち込まれた建築部材の一部を板状に再加工したものと考えられている。⁽²⁾

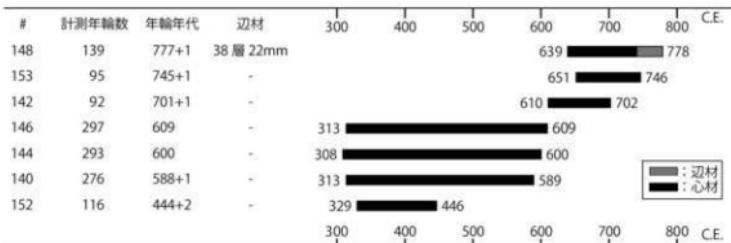
2 方法

調査対象について、薄切片プレパラートの生物顕微鏡観察による樹種同定を行うとともに、最も外側の年輪が刻まれている箇所を切断し、横断面の接写撮影した写真を用いて年輪幅をコンピュータ上で計測した。クロスデーティングは、年輪曲線をプロットしたグラフの目視評価と統計評価をあわせておこなった。また、クロスデーティングは、調査対象間相互、クロスデーティングが成立した調査対象について平均した年輪曲線（以下、平均年輪曲線）および標準年輪曲線群について繰り返し検討を行った。

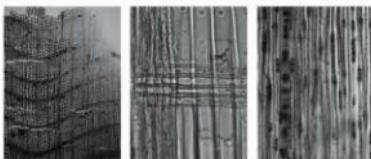
3 所見

第21図に、年輪年代を特定した調査対象の一覧を示す。年輪年代には最外層の年輪年代を示し、⁽⁴⁾ +で年輪幅を計測できないものの外側に何層あるか計数できた年輪数を示している。辺材は、肉眼で心材に対する色調や劣化の差が認められるものを辺材と判断し、辺材に含まれる年輪数と辺材の幅を示した。なお、樹種はいずれもヒノキと同定した（第22図）。

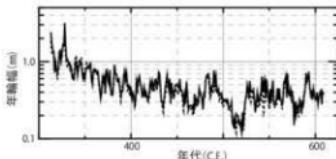
本検討により、調査対象のうち 7 点について年輪年代を特定した。第21図のバーチャートを見ると、609～610 年を境に大きく内側と外側のグループに分かれることがわかる。内側および外側のグループそれぞれで平均年輪曲線を作成し、標準年輪曲線群とのクロスデーティングにより、各調査対象の年輪年代を特定した。標準年輪曲線とのクロスデーティングは、いずれも平城宮跡出土品で構築されたヒノキの標準年輪曲線と照合し、⁽⁵⁾ t 値は内側の平均年輪曲線に対して



第21図 長岡京跡右京第1177次調査SB2201出土木材の年輪年代



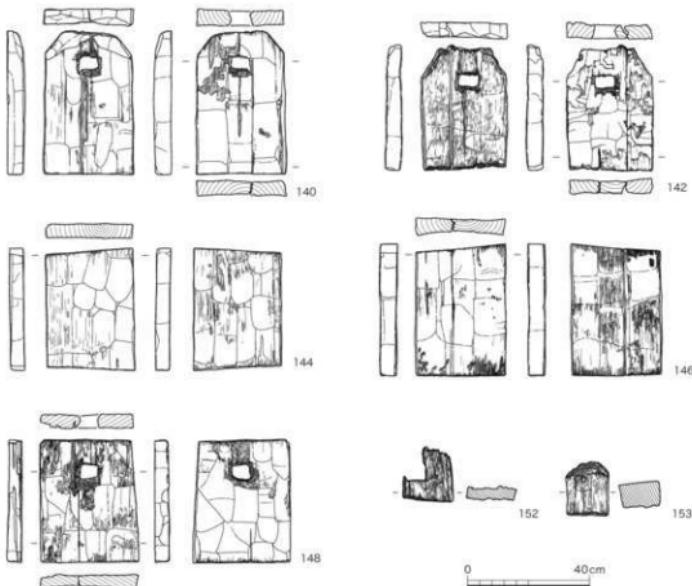
第22図 SB2201出土木材の顕微鏡写真 (#142)

第23図 同一材由来と考えられる
#140 (破線) と 146 (実線) の年輪曲線

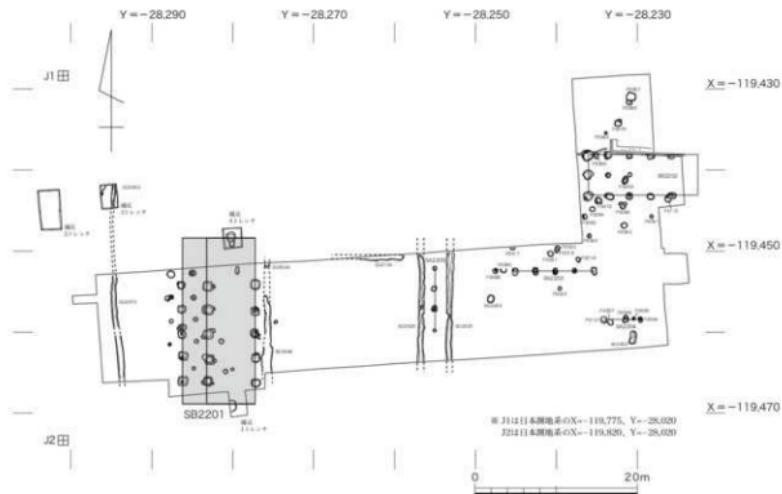
6.0、外側の平均年輪曲線に対して5.3であった。ただし、内側のグループのうち#152は、他の調査対象の年輪曲線とは照合せず、上記の標準年輪曲線に対して直接照合し、 t 値は7.3であった。また、内側のグループのうち#140と146は、相互の t 値が21.6と非常に高く、年輪変動の前年に対する増減や年輪幅の絶対値などが酷似するため、同一材に由来すると判断される（第23図）。

年輪年代が特定された各調査対象の伐採年は、残存する最外層の年代を通り得ないということになるが、調査対象を一連のものととらえると、最外層の年代が最も新しい#148の778年という年代に集約される。#148は、唯一、辺材が残存しており、778年以降それほど経たない年代に伐採されたと考えられる。年輪年代が明らかとなった7点は、大きく内側と外側のグループに分かれたが、内側のグループについても600年代初頭に伐採されたのではなく、#148と同様の伐採年が想定され、原本の内側の部分から木取りされ、また外側のグループは原本の外側の部分から木取りされた可能性が高い。調査対象について年輪の円弧の状況を観察すると、内側のグループではより内側になるにつれて円弧が急になり、最も古い年輪が刻まれる#144には随も観察されること、一方、外側のグループには円弧が急な箇所は観察されなかったことも、これらのことと支持すると考えられる。

- 注1) 京都府教育委員会 2020「府内の主な発掘調査」『京都府埋蔵文化財調査報告書（平成30年度）』
- 2) 長岡市埋蔵文化財センター 2020「右京1177次（7ANKJS-4地区）調査概報」『長岡市埋蔵文化財センター年報 平成30年度』
- 3) Baillie M.G.L. and J.R. Pilcher 1973 'A simple cross-dating program for tree-ring research' "Tree-Ring Bulletin" 33. クロスデーターティングの統計評価がスチュードントのt値で示される。
- 4) 調査対象の番号は、注2) 前掲文献での報告番号と対応する。
- 5) クロスデーターティングできなかった6点は、#141、143、145、147、151、154である。
- 6) 奈良国立文化財研究所 1990「年輪に歴史を読む—日本における古年輪学の成立—」『奈良国立文化財研究所学報』48



第24図 長岡京跡右京第1177次SB2201出土木材
長岡市埋蔵文化財センター（2020）より抜粋



第25図 長岡京跡右京第1177次検出遺構図(1/600)

長岡京市埋蔵文化財センター (2020) より抜粋

第3章 長岡市内遺跡詳細分布調査概要

1 はじめに

- 1 本報告は、令和元年（2019）年12月1日から令和2年3月31日までの令和元年度分、および令和2（2020）年4月1日から令和2年11月30日までの令和2年度に実施した詳細分布調査に関するものである。令和2年度のうち、令和2（2020）年12月から令和3年3月末までの調査分に関しては次年度、令和元年度の4月1日から11月29日までの詳細分布調査は『長岡市報告書』第74冊に、また原因者負担金によって実施した立会調査については『長岡市埋蔵文化財センター年報』令和元年度に報告してあるので、それぞれ参照願いたい。
- 2 調査は、令和2年度国庫補助事業として長岡市教育委員会が主体となり、教育委員会から委託を受けた公益財団法人長岡市埋蔵文化財センターが実施したものである。
- 3 調査にあたっては、工事の申請者や土地所有者をはじめ、工事施工業者の方々に種々のご理解とご協力を賜った。現地での調査は、おもに原秀樹、湯本整、山本輝雄、岩崎誠、大高義寛、山下研が担当した。
- 4 本報告の執筆は、山下が行った。

2 調査概要

詳細分布調査は、調査原因の大多数を占めているのが建築面積の小規模な個人住宅の建設であり、その他に集合住宅や店舗の建設、それから宅地造成工事などといった民間が主体となる事業に伴って実施している。さらに、上下水道事業を除く長岡市が企画、実施した公共事業についても行っている。調査によって得られた成果は、開発行為との協議・調整を行う上で欠くことのできない貴重な情報であり、今後も調査を継続していくことが必要である。

調査した地点は、長岡市内一円に広く及んでいて、令和元年度の下期にあたる令和元年12月1日から令和2年度の3月31日まで実施した調査は131件、令和元年度全体での総数は419件となる。令和2年度では、4月1日から11月29日までに230件行っている。調査の対象となる遺跡は、長岡京跡をはじめ、北から上里遺跡、井ノ内遺跡、乙訓寺、今里遺跡、今里北ノ町遺跡、谷山遺跡、長法寺遺跡、陶器町遺跡、開田古墳群、開田城ノ内遺跡、開田遺跡、神足遺跡、勝龍寺城跡、雲宮遺跡、谷田遺跡、下海印寺遺跡、友岡遺跡、鞆岡庵寺、南東ヶ塚遺跡など多岐の遺跡に及んでいるが、そのうち光明寺と光明寺古墳群、海印寺跡、奥海印寺遺跡、土山遺跡を除くいずれもが長岡京跡と重複している。また、長岡京跡においては、右京城が大半を占めているのに対して、左京城は例年のことではあるが、極めて少ない状況であった。

以下では、成果を得ることができた主要な調査について、令和元年度の後半（令和元年12月～令和2年3月）と令和2年度の前～中期（令和2年4月～11月）に年度を分けてその概要を報告する。

3 主な調査成果

1. 令和元年度の調査

(1) 第19365次調査(第26~29・70図)

本調査は、個人の木造住宅建設工事に伴い実施した。調査地は久貝三丁目27-2に所在し、長岡京の条坊復原では右京九条一坊八町にあたり、南栗ヶ塚遺跡にも含まれる。調査地の標高は14m前後の宅地で、地形分類では低位段丘Iに該当する。

調査は令和2年1月15日に実施した。柱状改良工事による掘削で、深さは地表下3mである。地表下1.6mまでは土層の観察ができた。地表下0.5mまでは盛土、地表下1.1mまでの暗褐色粘質土は遺物包含層、もしくは遺構の可能性があり、土製の鉢(1)が出土した。近世の所産である。それ以下は黄色粘質土の地山を確認した。

(2) 第19411次調査(第30・31図)

本調査は、個人の木造住宅建設工事に伴い実施した。調査地は長岡三丁目37-6に所在し、長岡京の条坊復原では右京四条二坊十三町にあたり、陶器町遺跡にも含まれる。調査地の標高は28m前後で、地形分類では低位段丘Iに該当する。

調査は令和2年2月25日に実施した。掘削は地表下0.35mまで行われ、盛土内に収まっていた。近世以降の溝1条を確認した。溝内部には暗渠管を確認した。



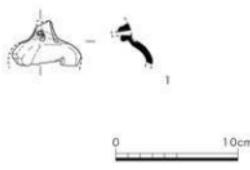
第26図 第19365次調査位置図(1/5000)



第27図 第19365次調査地全景(北西から)



第28図 第19365次調査断面(東から)



第29図 第19365次調査出土遺物実測図(1/4)

(3) 第19427次調査(第32・33図)

本調査は、個人の木造住宅建設工事に伴い実施した。調査地は奥海印寺南垣外4-11に所在し、奥海印寺遺跡に該当する。調査地は標高41m前後の宅地で、地形分類では低位段丘Iに該当する。

調査は令和2年3月3・9日に実施した。掘削は、柱状改良で地表下3mまで、基礎工事で地表下0.8mまで行われた。土層の堆積状況は、地表下0.5mまで表土、地表下0.8mまで疊を含む黒褐色粘質土が堆積し、それ以下は黄色砂質土が堆積する。黒褐色粘質土層から土師器の細片が2点出土した。

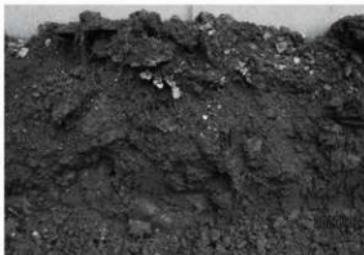
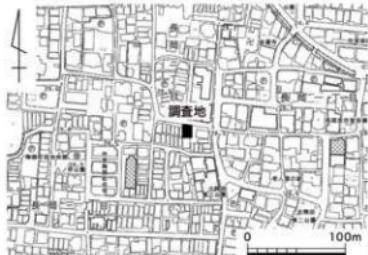
2. 令和2年度の調査

(1) 第20030次調査(第34～37図)

本調査は、集合住宅建設工事に伴い実施したものである。調査地は、友岡四丁目3-1に所在し、長岡京の条坊復原では右京八条三坊七・八町に該当するほか、友岡遺跡、鞘岡庵寺にも含まれる。調査地は標高28m前後の宅地および道路で、地形分類では低位段丘Iにあたる。

調査は令和2年5月11・12日、8月17～19日に実施した。建物の基礎工事では、地表面から約0.5mの掘削が面的に行われたが、盛土内の掘削であった。一方、敷地内への水道枝管の引き込み工事では、遺構を確認することができた。

遺構を確認したのは阪急京都線の東に隣接する道路内で、敷地北側の東西道路との交点から南へ約20mの範囲である。掘削は地表面から約0.9mまで行われ、地表下約0.3mで旧耕作土、



第30図 第19411次調査地位置図(1/5000)

第31図 第19411次調査(東から)



第32図 第19427次調査地位置図(1/5000)



第33図 第19427次調査断面(東から)

地表下 0.2 ~ 0.4m で黄褐色粘質土の地山を確認できた。この地山の上面で溝 2 条、土坑 1 基を検出した。遺構は北から溝 SD01、土坑 SK01、溝 SD02とした。それぞれの間隔は 0.41m、0.75m である。溝 SD01 と溝 SD02 は東西両壁面で断面が確認できたが、土坑 SK01 は西壁では確認できなかった。溝 SD01 は幅 0.96m、深さ 0.25m、土坑 SK01 は幅 0.6m、深さ 0.4m、溝 SD02 は幅 0.8m、深さ 0.25m を測る。埋土は灰色粘質土である。遺物は出土していないため、帰属時期は不明である。

当地の南約 300m には鞆岡廃寺の推定地がある。右京第 129 次調査では、鞆岡廃寺に関連すると考えられている溝が検出され、奈良時代から平安時代にかけての瓦が大量に出土している。



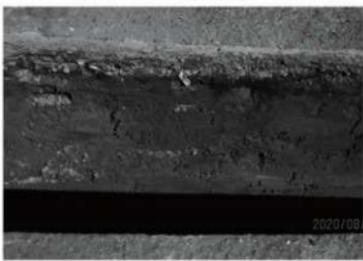
第34図 第20030次調査地位置図(1/5000)



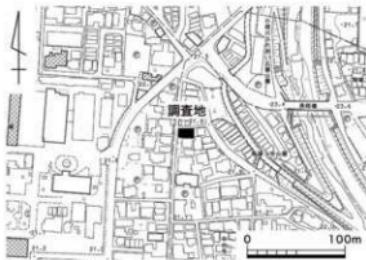
第35図 第20030次調査地掘削(北から)



第36図 第20030次調査溝SD01断面(西から)



第37図 第20030次調査土坑SK01断面(西から)



第38図 第20054次調査地位置図(1/5000)



第39図 第20054次調査断面(南から)

長岡廃寺は中心伽藍等、実態は不明であるため、当地周辺の開発行為には注意が必要である。

(2) 第20054次調査(第38・39図)

本調査は、個人の木造住宅建設工事に伴い実施したものである。調査地は、馬場一丁目104-1に所在し、長岡京条坊復原によると右京五条一坊十一町にあたる。標高22m前後の宅地で、地形分類では低位段丘Iに該当する。

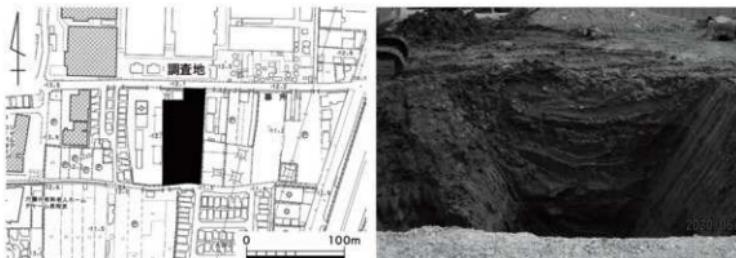
調査は、令和2年6月1・2日に実施した。調査地は西国街道に面した東西にやや長い方形の宅地で、基礎の部分は線状に掘削されていた。掘削の深さは地表下0.25mで、0.1m程度の盛土を除去すると黒褐色粗砂混じり砂質土の旧表土とみられる土層が観察できた。遺構の検出には至らなかつたが、陶磁器の小片が出土し、炭化物の散布も認められた。

今回の調査では旧表土とみられる土層の確認にとどまつたが、本地点は南西約250mに開田古墳群、南東100mには神足遺跡が所在しており、両遺跡の広がりを知るうえで重要な地点といえよう。

(3) 第20072次調査(第40・41図)

本調査は、工場建設に伴って実施したものである。調査地は、神足木寺町19の一部、20に所在し、長岡京条坊復原では左京七条一坊十一町にあたる。標高は12m前後で、地形分類上は小畠川のつくった扇状地に該当する。

調査は、令和2年6月15～17日、8月17～21・24・25・27・28・31日、9月1～4・7～9日に実施した。なお、平成30(2018)年11月29日には既存構造物の解体が行われる機会を利用して、市教委が土層の堆積状況を確認しており、地表下1.1mに旧耕作土、約1.7mで遺構面とみられる暗紫灰色シルト層が検出されている。今回の調査では、防火水槽設置工事で地表下5.5mまでの掘削が行われたため、その部分で土層断面の観察を行つた。地表下1.1mで旧耕作土、2mで暗紫灰色粘質土層を確認し、3.2mで黒色粘質土の腐植層に至る。本調査地の北西約200mの位置では、左京第613次調査⁽²⁾が実施されている。左京第613次調査では、蛇行しながら南下する溝SD21が検出されている。SD21では長岡京期の遺物のほか、古墳時代や弥生時代の遺物も出土している。また、埋土は黒褐色粘質土で、植物遺体を多量に含むものであつた。さらに、調査区南端で南東に大きく向きを変えることから、本調査地で確認した黒色の粘土



層はSD21の延長、または支流にあたる可能性があろう。

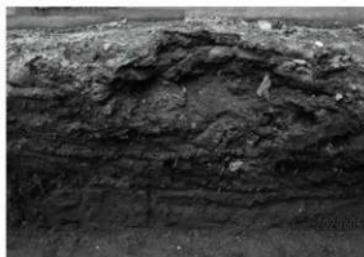
(4) 第20074次調査(第42・43図)

本調査は、個人の木造住宅建設工事に伴い実施したものである。調査地は、神足一丁目222-55に所在し、長岡京の条坊復原によると右京六条一坊十町にあたり、神足遺跡、開田古墳群、勝龍寺城跡(近世)にも含まれる。標高18m前後の宅地で、地形分類では低位段丘Iに該当する。

調査は、令和2年6月15日に実施した。掘削は地表下0.7mまで行われ、地表下0.1~0.4mに旧耕作土を確認した。その下位には黒色砂質土が堆積し、地表下0.6mで黄褐色粘質土の地山に至る。調査地南端では小穴を2基確認した。いずれも幅0.4m、深さ0.2m前後である。遺



第42図 第20074次調査地位置図(1/5000)



第43図 第20074次調査断面(北から)



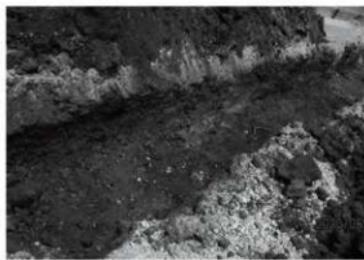
第44図 第20076次調査地位置図(1/5000)



第45図 第20076次調査地全景(南東から)



第46図 第20076次調査地断面(北西から)



第47図 第20076次調査溝検出(北西から)

物は出土しておらず、帰属時期は不明である。

(5) 第20076次調査（第44～47図）

本調査は、個人の木造住宅建設工事に伴い実施したものである。調査地は、奥海印寺太鼓山22-48の一部、22-5の一部に所在し、長岡京跡関連遺跡に含まれる。標高は63.2m前後の宅地で、地形分類では高位段丘に該当する。

調査は、令和2年6月22・23日に実施した。擁壁設置のための表層地盤改良工事によって、掘削は地表下1mまで行われた。地表下0.65mで旧耕作土、地表下0.7mで地山とみられる赤褐色粘質土を確認した。地山の上面で、小穴2基と、溝を3条検出した。溝は幅0.3m、0.4m、0.7mのものがあり、そのうち2条は正方位に近く、交差していた。いずれも遺物の出土はなく、帰属時期は不明である。

(6) 第20097次調査（第48～51・70図）

本調査は、駐車場の造成工事に伴って実施したものである。調査地は、神足堂ヶ内地内に所在し、長岡京の条坊復原によると左京五条一坊十二町に該当するほか、馬場遺跡にも含まれる。調査地は標高15m前後の水田で、地形分類では北西-東方向に延びる旧河道の流路内にあたる。

調査は、令和2年7月10・21日に実施した。掘削は擁壁設置部分で地表下1.1mまで行われた。土層の確認ができた範囲では、地表下0.2mまで耕作土で、それ以下の地表下0.4mまでは明黄褐色砂質土の堆積を確認した。遺物は土師器の椀（2）、須恵器の杯（3）・甕（4）、瓦器



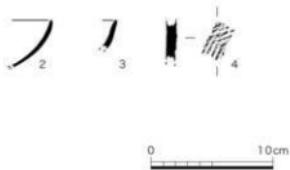
第48図 第20097次調査地位置図(1/5000)



第49図 第20097次調査地全景(北東から)



第50図 第20097次調査地全景(北東から)



第51図 第20097次調査出土遺物実測図(1/4)

など古代～中世の遺物が出土した。北へ約70mの左京第558次調査の成果を参考にすれば、明黃褐色砂質土層は中世の遺構検出面とみられ、さらに下位には長岡京期の遺構面が存在する可能性が高い。

(7) 第20139次調査(第52～55・70図)

本調査は、集合住宅建設工事に伴い実施したものである。調査地は、勝竜寺三枚田14に所在し、長岡京の条坊復原によると右京八条一坊二町に該当する。調査地周辺の標高は12m前後で、地形分類では後背低地にある。

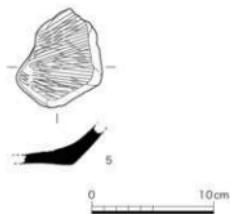
調査は令和2年8月18・19・24～26日に実施した。貯水槽の設置工事では地表下2.5mま



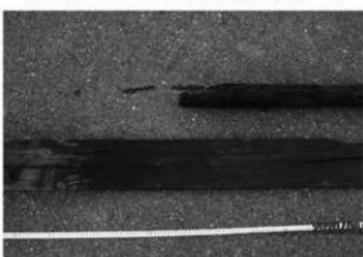
第52図 第20139次調査位置図(1/5000)



第53図 第20139次調査地掘削(南東から)



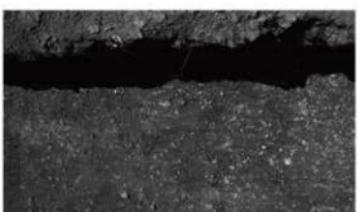
第54図 第20139次調査出土遺物実測図(1/4)



第55図 第20139次調査出土木製品



第56図 第20141次調査位置図(1/5000)



第57図 第20141次調査土坑検出(北から)

で掘削が行われた。地表下0.9mでコンクリートが現れ、それ以下は黄橙色粗砂、暗灰色粘質土、暗灰色砂質土、灰色粗砂の順に堆積しており、地表下2.3m付近で擂鉢（5）や板材等が出土した。

（8）第20141次調査（第56・57図）

本調査は、個人の鉄骨住宅建設に伴い実施したものである。調査地は、うぐいす台30に所在し、長岡京の条坊復原によると右京五条三坊十六町にあたる。調査地は標高35m前後の宅地で、地形分類では段丘をおおう扇状地に該当する。

調査は令和2年8月19日に実施した。掘削は地表下0.8mまで行われた。地表下0.1～0.4mでは旧耕作土と床土が堆積し、それ以下で礫を含む黄褐色砂質土の地山を確認した。遺構は土



第58図 第20166次調査位置図（1/5000）



第59図 第20166次調査地全景（北から）



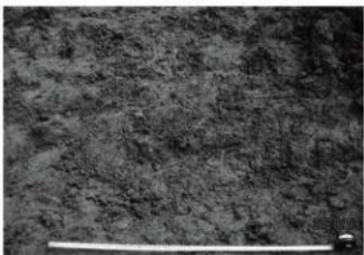
第60図 第20166調査地断面（北から）



第61図 第20166次調査溝SD01断面（北西から）



第62図 第20166次調査溝SD02断面（北から）



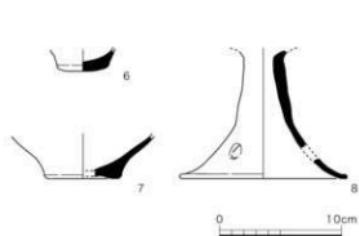
第63図 第20166次調査土坑SK01検出（北から）

坑1基を検出し、埋土は暗灰色砂質土であった。遺物は出土していないため時期は不明である。

(9) 第20166次調査(第58~64・70図)

本調査は、個人の鉄骨住宅建設工事に伴い実施したものである。調査地は長法寺南野2-1に所在し、長岡京の条坊復原によると右京五条四坊十六町にあたるほか、長法寺遺跡にも含まれる。調査地の標高は49m前後の宅地で、地形分類では段丘をおおう扇状地に該当する。

調査は令和2年9月1・2日に実施した。掘削は地表下1.5mまで行われた。地表下0.3mまで耕作土と床土が認められ、地表下0.42mまで灰黄褐色粘質土が堆積し、それ以下は黄色粘質土の地山である。地山の上面で、溝2条、土坑1基を確認した。遺構が認められたのは、建物予



第64図 第20166次調査出土遺物(1/4)



第65図 第20174調査位置図(1/5000)



第66図 第20174次調査地全景(南から)



第67図 第20174次調査地全景(南東から)



第68図 第20192次調査位置図(1/5000)



第69図 第20192次調査地全景(南東から)



第70図 出土遺物

定地の南東端周辺である。溝SD01は東の壁際で確認した南北溝で、東端は検出できなかった。長さは3.8m以上、幅0.5m、深さは0.1mである。土坑SK01は溝SD01の西側、溝SD02の北端からわずかに北の位置で検出した。SK01は梢円形を呈し、長径1.4m、短径0.8m、深さは0.1mである。埋土は砂を含む黒褐色粘質土である。灰黄褐色粘質土層で少量の土師器と弥生時代の甕・壺の底部（6・7）、高杯の脚部（8）が出土した。調査地は長法寺遺跡の西端に位置し、谷山遺跡の東端に近接する。両遺跡の広がりを考えるうえで、重要な成果が得られた。

(10) 第20174次調査（第65～67図）

本調査は、個人の鉄骨住宅建設工事に伴い実施したものである。調査地は神足二丁目107に所在する。長岡京の条坊復原によると右京七条一坊十六町にあたり、開田遺跡にも含まれる。調査地は標高17m前後の宅地で、地形分類では低位段丘Ⅰに該当する。

調査は令和2年9月14～17日に実施した。掘削は地表下1.8mまで行われた。地表下0.5～0.7mまで盛土や旧耕作土が認められ、それ以下に砾を含む褐色砂質土の地山を確認した。遺物は土師器の皿とみられる小片が1点出土した。

(11) 第20192次調査（第68・69図）

本調査は、個人の木造住宅建設工事に伴い実施した。調査地は井ノ内下印田10-6の一部に所在し、長岡京の条坊復原では右京二条二坊十三町にあたる。調査地は標高30m前後の宅地で、地形分類では氾濫原Ⅰに該当する。

調査は令和2年9月28日に実施した。柱状改良工事で地表下4mまで掘削が行われた。土層は地表下0.4mまで確認でき、盛土中から土師器の細片が1点出土した。

注1) 小田樹 淳「右京第129次調査概要」『長岡京市センター報告書』第2集 1985年

2) 山下 研「左京第613次調査概報」『長岡京市センター年報』令和元年度 2021年

3) 原 秀樹「左京第558次調査概報」『長岡京市センター年報』平成25年度 2015年

付表-3 長岡市内遺跡詳細分布調査一覧表-1 (令和元年12月～令和2年3月)

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
19319	長岡京跡右京八条四坊	下海印寺西明寺 16-18、17-4	木造2階建	12月2日	GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
19320	長岡京跡右京八条四坊	下海印寺西明寺 16-23、31-8	木造2階建	12月2日	GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
19321	長岡京跡右京七条三坊	梅が丘二丁目 71	木造2階建	12月2・13日	GL~190cmの掘削。土層の観察はできなかつた。GL~50cmの掘削。盛土のみを確認。
19322	長岡京跡右京七条四坊 伊賀寺遺跡	梅が丘三丁目 133-1	擁壁設置 駐車場造成	12月2日	GL~130cmの掘削。盛土のみを確認。
19323	長岡京跡右京二条二坊	瀬ノ町一丁目 110-15	木造3階建	12月3・10日	柱状改良工事。GL~250cmの掘削。GL~140cmで旧床土を確認。配水管敷設工事。GL~45cmの掘削。盛土のみを確認。
19324	長岡京跡右京七条二坊 開田道路	開田四丁目地先	電柱設置	12月4・24日	GL~210cmの掘削。GL~120cmまで暗褐色 磚面じり粘質土、以下、暗灰色粘質土の堆積土。
19325	長岡京跡右京五条二坊 開田城／内遺跡	長岡一丁目 410-10 の一部	木造2階建	12月4・5日	柱状改良工事。GL~230cmの掘削。GL~150 cmまで認可可能。GL~25~50cmま での盛土。GL~50~85cmまで暗灰色粘質 土。GL~55~70cm以下で暗褐色粘質土の堆 積土を確認した。周辺調査例から地盤形成層 と考えられる。基礎。GL~50cmの掘削。盛 土のみを確認。
19326	長岡京跡右京四条二坊	長岡一丁目 19	宅地造成	12月5日	GL~20~200cmの掘削。盛土のみを確認。
19327	下海印寺遺跡	奥海印寺火ノ尾 37-12	木造2階建	12月9日	GL~20~30cmの掘削。盛土のみを確認。
19328	長岡京跡左京八条一坊	城の里 24-29	木造2階建	12月9日	GL~30~40cmの掘削。盛土のみを確認。
19329	長岡京跡右京八条一坊	城の里 19-2	木造2階建	12月9日	GL~25~84cmの掘削。GL~60cmまで、盛 土のみを確認。
19330	長岡京跡右京三条三坊 今里遺跡	今里四丁目 127-1	木造2階建	12月9日	GL~10~60cmの掘削。盛土のみを確認。
19331	長岡京跡右京二条三坊 上里遺跡	井ノ内北内畠6-1の一部、 6-5	木造2階建	12月9・10日	GL~40cmの掘削。GL~24cmまでの盛土下、 黒褐色砂質土の堆積層を確認。
19332	長岡京跡右京六条一坊 神足遺跡 開田古墳群 勝龍寺城跡(近世)	神足一丁目 7-11、7-4 の一部	木造2階建	12月11日	GL~34~40cmの掘削。GL~33cmで橙色粘 質土の地山を確認。
19333	長岡京跡右京五条二坊 陶器町遺跡	長岡二丁目 2	携帯電話基 地局設置	12月11日	集合住宅敷地南東隅に設置。調査地東側は 80cm低い駐車場となっている。GL~25cm の掘削。盛土のみを確認。
19334	長岡京跡右京七条二坊	緑が丘 419-142	木造2階建	12月13日	GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
19335	長岡京跡右京八条四坊	下海印寺西山田 41-6、西 明寺 10-24	木造2階建	12月23日	GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
19336	長岡京跡右京六条二坊 雲宮遺跡 櫛穴遺跡	神足橋本 15-1	鉄骨2階建	12月13・ 16・17・18日	柱状改良工事。GL~520cmの掘削。GL~ 100cmまで盛土を確認。
19337	長岡京跡右京六条一坊 開田遺跡 開田古墳群	開田二丁目 31-4 他	鉄骨2階建	12月16日	GL~57cmの掘削。盛土のみを確認。
19338	長岡京跡右京七条四坊 下海印寺遺跡	下海印寺方丸地先	電柱支線設 置	12月16日	GL~180cmの掘削。GL~120cmで灰色粘質 土の地山を確認。

調査 次数	遺跡名	所 在 地	工事内容	調査日	調査概要
19339	長岡京跡右京四条二坊	野添一丁目地内	道路側溝及び舗装復旧工事	12月17日、 1月6~9、 16~17・20・ 27・28日、 2月3・6・7・ 19・21・27・ 28日、3月2・ 12日	GL~50~60cmの掘削。盛土のみを確認。
19340	長岡京跡右京七条四坊下海印寺遺跡	下海印寺北条地内	歩道改修	12月17・18日、 1月6~9・ 14・16・ 30日	GL~108cmの掘削。GL~54cmまでの黄色粘質土の地山を確認。
19341	長岡京跡左京七条一坊	城の里5-1	宅地造成	12月19日	GL~90cmの掘削。盛土のみを確認。
19342	長岡京跡右京七条二坊	開田四丁目18-7	木造3階建	12月17日	GL~150cmの掘削。盛土のみを確認。
19343	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目15-5	木造2階建	12月20日	GL~60cmで明黄色砂質シルトの地山を確認。
19344	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条4-17	木造2階建	12月23日	GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
19345	長岡京跡右京八条二坊南栗ヶ塚遺跡	久貝二丁目207-6	木造2階建	12月23日	GL~35cmの掘削。盛土のみを確認。
19346	長岡京跡右京八条一坊南栗ヶ塚遺跡	久貝二丁目209-9	木造2階建	12月27日、 2月3日	柱状改良工事、GL~500cmの掘削。盛土のみを確認。基礎、GL~15~25cmの掘削。盛土のみを確認。
19347	長岡京跡右京四条二坊	野添一丁目7-109	木造3階建	12月27日	GL~60cmの掘削。盛土のみを確認。
19348	長岡京跡右京四条二坊	長岡一丁目地内	舗装改修工事	1月6~8・ 14・20・22・ 24・27・28、 2月3・4・ 12・13日	GL~80cmの掘削。盛土のみを確認。
19350	長岡京跡右京七条四坊	下海印寺西山田41-3、 65-2、65-3、西明寺10 -43	木造2階建	1月7・8・ 14日	柱状改良工事、GL~600cmの掘削。GL~50cmまで盛土を確認。基礎、GL~40cmまでの掘削。盛土のみを確認。
19351	長岡京跡右京六条二坊	開田三丁目29-1	木造3階建	1月8日	GL~140cmの掘削。GL~105cmでにぶい黄橙色粘質土の地山を確認。
19353	長岡京跡右京五条四坊	長法寺芝端14-3の一部	木造2階建	1月9日	GL~118cmの掘削。盛土のみを確認。
19354	下海印寺遺跡	奥海印寺新度畠29-1、 31の各一部、30-1	木造2階建	1月9日、 2月3日	GL~25cmの掘削。盛土のみを確認。
19355	長岡京跡右京三条四坊	栗生尾ヶ前35-7、35-8	木造3階建	1月9日	GL~16cmの掘削。盛土のみを確認。
19356	長岡京跡右京五条三坊陶器町遺跡	長岡二丁目237-69	木造3階建	1月9日	GL~55cmの掘削。盛土のみを確認。
19357	長岡京跡右京四条二坊	一文橋二丁目11-15	木造3階建	1月14日	GL~110cmを掘削。盛土のみを確認。
19360	長岡京跡右京六条三坊開田城ノ内遺跡	天神一丁目39-1の一部、 39-2の一部、39-3、37 -4、37-5	鉄骨2階建	1月14日	GL~60cmの掘削。盛土のみを確認。
19361	奥海印寺遺跡	奥海印寺多賀垣外14-5	鉄骨2階建	1月14日	GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
19362	長岡京跡開運遺跡 奥海印寺遺跡	奥海印寺野辺田2の一部	木造1階建	1月14日	GL~25cmの掘削。GL~23cmまで耕作土、以下、床土を確認。
19363	長岡京跡右京三条二坊	柴の里10番143の一部	木造2階建	1月14日	GL~35cmの掘削。盛土のみを確認。

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
19364	長岡京跡右京三条二坊	柴の里 10番 143 の一部	木造 2階建	1月 14日	GL~30cm の振削。盛土のみを確認。
19365	長岡京跡右京九条一坊 南栗ヶ塚遺跡	久貝三丁目 27-2	木造 2階建	1月 15日	本文中に内容を記載。
19366	長岡京跡右京六条二坊 開田遺跡 開田古墳群	開田二丁目地内	道路改良工事	1月 15 ~ 17・20・21・ 24・29・2 月 4・7・10・ 18・19・25 日	GL~78cm の振削。橙色粘質土の地山を確認。 小穴 1 基を確認した。
19367	長岡京跡右京五条一坊	開田一丁目 2-7	木造 2階建	1月 15日	GL~206cm の振削。GL~60cm で橙色粘質土 ~暗褐色砂混じり礫層の地山を確認。
19368	長岡京跡右京二条三坊	今里貝川 2-6	木造 2階建	1月 15日	GL~35cm の振削。GL~30cm で旧床土または地山を確認した。
19369	谷田遺跡	奥海印寺太鼓山 15-4	木造 2階建	1月 16日	GL~50cm の振削。GL~30cm で黄色粘質土を確認した。
19370	長岡京跡右京七条四坊	梅が丘三丁目 124	ガレージ建設	1月 17日	すでに工事は終了していた。
19371	長岡京跡右京四条二坊	長岡一丁目 221-118	木造 2階建	1月 20日	GL~35cm の振削。盛土のみを確認。
19373	長岡京跡右京七条二坊 開田遺跡	竹の台地内	道路築造	1月 20 ~ 22・24・27・ 28・30・31・ 2月 3・4・6・ 14・19・26 日、 3月 2日	GL~105cm の振削。盛土のみを確認。
19374	長岡京跡右京四条二坊	長岡三丁目 14-10	宅地内ガス 枝管敷設	1月 21日	GL~116cm の振削。盛土のみを確認。
19375	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足森木 15-1	宅地造成	1月 21・30日、 3月 31日	GL~85cm の振削。GL~50 ~ 70cm で暗褐色 粘質土の堆積土を確認した。
19376	長岡京跡右京七条三坊	梅が丘二丁目 89-1	木造 2階建	1月 21日	GL~35cm の振削。盛土のみを確認。
19377	長岡京跡右京七条二坊	緑が丘 306-27	木造 2階建	1月 24日	GL~60cm の振削。盛土のみを確認。
19378	長岡京跡右京八条二坊	緑が丘 29-16	木造 2階建	1月 24日	GL~34cm の振削。盛土のみを確認。
19379	長岡京跡右京六条二坊 泉跡	開田四丁目地先	電柱設置	1月 27日	GL~150cm の振削。GL~92cm 以下、黒色粘 質土～灰白色粗砂～黄色粘質土の河岸堆積層 を確認。
19380	長岡京跡右京三条三坊 今里遺跡 井ノ内遺跡	今里蓮ヶ糸 11-12	木造 3階建	1月 28日	柱状改良工事、GL~220cm の振削。GL~140 cm でぶい褐色粘質土の地山を確認。
19381	長岡京跡右京七条四坊	下海印寺西山田 16-15	木造 2階建	1月 29日	GL~60cm の振削。盛土のみを確認。
19382	長岡京跡右京七条二坊	開田四丁目 4	散水栓設置 工事	1月 30日	GL~120cm の振削。盛土のみを確認。
19383	長岡京跡右京四条四坊	長法寺南谷 9-24	木造 2階建	1月 31日	柱状改良工事、GL~250cm の振削。GL~20cm で黄褐色灰白色粘質土の地山を確認。
19384	長岡京跡右京三条二坊 今里道路	今里櫛ノ尻 1-7	木造 2階建	1月 31日、 2月 6日	鋼管杭による地盤改良工事、GL~60cm の振 削。GL~40cm まで確認可能。盛土のみを確認。 基礎、GL~10cm の振削。盛土のみを確認。
19385	長岡京跡右京七条四坊	下海印寺西山田 16-16 他	木造 2階建	2月 3日、 3月 6日	GL~140cm の振削。盛土のみを確認。
19387	長岡京跡右京七条四坊	下海印寺西山田 16-17	木造 2階建	2月 4日、 3月 4日	表層改良工事、GL~140cm の振削。盛土のみ を確認。基礎、GL~40cm の振削。盛土のみ を確認。

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
19388	長岡京跡右京八条三坊 友岡遺跡	友岡西畠 26	地中電線路 新設工事	2月5日	GL~70cm の掘削。盛土のみを確認。
19389	長岡京跡間連遺跡	栗生川久保 3	木造2階建	2月6日	GL~55cm の掘削。盛土のみを確認。
19390	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足麦生 2-2 の一部	木造2階建	2月6日	GL~35cm の掘削。盛土のみを確認。
19391	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足麦生 2-2 の一部	木造2階建	2月6日	GL~35cm の掘削。盛土のみを確認。
19392	長岡京跡左京七条二坊	神足七ノ坪 10	鉄骨3階建	2月7・12日	鋼管杭による地盤改良工事、GL~215cm の掘削。盛土のみを確認。基礎、GL~50cm まで盛土。以下、暗褐色粘土の堆積土を確認。
19393	長岡京跡右京五条三坊 陶器町遺跡	長岡二丁目 237-6	木造2階建	2月10日	GL~35cm の掘削。盛土のみを確認。
19395	奥海印寺遺跡	奥海印寺野辺田 18-11	木造2階建	2月12・13日	柱状改良工事、GL~320cm の掘削。GL~75cm で褐色粘土の堆積土を確認。基礎、GL~15cm の掘削。盛土のみを確認。
19396	長岡京跡右京五条四坊 東代遺跡	天神三丁目 35-13, 35-14, 40-7, 119-2	木造2階建	2月12日	GL~35cm の掘削。盛土のみを確認。
19397	長岡京跡右京四条一坊	一文橋二丁目 117-54	木造3階建	2月12日	GL~43cm の掘削。盛土のみを確認。
19398	長岡京跡右京七条三坊	天神二丁目 137-1 地内	電柱設置	2月12日	GL~140cm の掘削。盛土のみを確認。
19399	長岡京跡右京七条四坊	梅が丘三丁目 124 の南側	宅地造成	2月12日	コンクリート製擁壁設置工事、GL~35~40cm の掘削。盛土のみを確認。
19400	長岡京跡右京四条二坊	柴の里 1-61	木造2階建	2月13・18日	柱状改良工事、GL~350cm の掘削。GL~130cm で淡黄色粘土の地山を確認。基礎、GL~46cm の掘削。盛土のみを確認。
19401	長岡京跡右京八条三坊 友岡遺跡	友岡三丁目 119-11	木造3階建	2月14日	GL~55cm の掘削。土層の観察はできなかつた。
19402	長岡京跡右京五条三坊 宇津久志古墳群	天神五丁目地先	電柱設置	2月14日	GL~80cm の掘削。盛土のみを確認。
19403	奥海印寺遺跡	奥海印寺多賀坂外 15-3	木造2階建	2月14日	GL~55cm の掘削。盛土のみを確認。
19404	長岡京跡左京八条一坊	城の里 20-11	鉄骨2階建	2月17日	GL~37.5cm の掘削。土層の観察はできなかつた。
19405	長岡京跡左京八条一坊	城の里 22-15	木造2階建	2月17日	すでに工事は終了していた。
19406	長岡京跡右京六条二坊	開田二丁目 222-3	木造2階建	2月18日	GL~75cm の掘削。盛土のみを確認。
19407	長岡京跡右京八条三坊 友岡遺跡 納戸廻寺	友岡四丁目 30-40	木造3階建	2月20日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
19408	長岡京跡右京六条四坊	奥海印寺東山 10-12	木造3階建	2月20日	GL~35cm の掘削。盛土のみを確認。
19409	長岡京跡右京四条三坊	天神五丁目 10-57 の一部	木造2階建	2月21日	GL~65cm の掘削。盛土のみを確認。
19410	長岡京跡右京四条三坊	天神五丁目 10-57 の一部	木造2階建	2月21日	GL~62cm の掘削。盛土のみを確認。
19411	長岡京跡右京四条二坊 陶器町遺跡	長岡三丁目 37-6	木造2階建	2月25日	本文中に内容を記載。
19413	長岡京跡右京五条一坊	開田一丁目 28-61	木造2階建	2月25日	GL~250cm の掘削。GL~70cm まで暗褐色粘土の堆積土を確認した。それ以下は観察できなかつた。

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
19414	長岡京跡右京七条一坊 勝龍寺城跡（中世）	勝竜寺 103-34	鉄骨2階建	2月10日	柱状改良工事、GL~300cmの掘削。土層の観察はできなかった。基礎、GL~10cmの掘削、盛土のみを確認。
19415	長岡京跡左京八条一坊	勝竜寺西川原田 16-3	携帯電話基地局設置	2月25日	GL~300cmの掘削、GL~200cmで褐色粘質土、以下、灰~灰白色砂質土~粗砂の堆積土を確認。河川堆積層であろう。
19416	長岡京跡右京九条二坊 宿道跡 怡田道跡	調子三丁目 1-1	鉄筋1階建	2月27日	柱状改良工事、GL~350cmの掘削。盛土のみを確認。
19417	長岡京跡右京七条二坊 開道跡	神足三丁目 203-2	携帯電話基地局設置	2月27日	GL~300cmの掘削、GL~135cmで淡黄色~黄色粘質土の地山を確認。
19419	長岡京跡右京七条四坊	下海印寺西山田 16-19、 17-5	木造2階建	3月3日	柱状改良工事、GL~250cmの掘削。盛土のみを確認。基礎、GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
19420	長岡京跡右京七条四坊	下海印寺西山田 17-6	木造2階建	2月28日、 3月3日	柱状改良工事、GL~450cmの掘削。盛土のみを確認。基礎、GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
19421	長岡京跡右京八条四坊	下海印寺西明寺 10-42	木造2階建	2月28日、 3月9日	柱状改良工事、GL~300cmの掘削。盛土のみを確認。基礎、GL~30~62cmの掘削。盛土のみを確認。
19422	長岡京跡右京三条三坊 今里遺跡 井ノ内遺跡	井ノ内南内堀 28-44	鉄骨2階建	2月28日	GL~75cmの掘削。盛土のみを確認。
19423	長岡京跡右京八条四坊	下海印寺西明寺 10-39	木造2階建	2月28日、 3月11日	柱状改良工事、GL~175cmの掘削。盛土のみを確認。基礎、GL~30cmの掘削。GL~10cmで黄色粘土の地山を確認。
19424	長岡京跡開道跡 谷田遺跡	奥海印寺谷田 37-22	木造2階建	3月2日	GL~40cmの掘削。土層の観察はできなかつた。
19425	長岡京跡右京七条一坊	東神足二丁目5	看板設置	3月2日	GL~55cmの掘削。表土のみを確認。
19426	長岡京跡右京二条二坊	井ノ内下印田 1-10	木造2階建	3月2日	GL~40cmの掘削。盛土のみを確認。
19427	奥海印寺遺跡	奥海印寺南垣外4-11	木造2階建	3月3・9日	本文中に内容を記載。
19428	土山遺跡	金ヶ原寿先 8-1	宅地造成	3月3日	GL~300cmの掘削。土層の観察はできなかつた。
19429	長岡京跡右京三条一坊	尾ノ町一丁目 15-30	木造2階建	3月5日	GL~65cmの掘削。盛土のみを確認。
19430	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊 2-1 他 1 塚の内一部	木造2階建	3月6日	GL~35cmの掘削。盛土のみを確認。
19431	長岡京跡右京四条三坊 今里遺跡 乙調寺	今里三丁目 7-3 の一部	木造2階建	3月6日	GL~50cmの掘削。盛土のみを確認。
19432	長岡京跡右京六条四坊	天神二丁目 101-82	木造2階建	3月9日	GL~135cmの掘削。盛土のみを確認。
19433	長岡京跡右京二条二坊	尾ノ町二丁目 34-2 の一部	木造2階建	3月9日	GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
19434	長岡京跡右京二条二坊	西の京 2-3、2-45	木造2階建	3月9日	柱状改良工事、GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
19435	長岡京跡右京五条一坊 馬場遺跡	馬場二丁目 210-3、210-21	鉄骨2階建	3月9日	GL~50cmの掘削。GL~40cmで黄色粘質土の地山を確認。
19436	長岡京跡左京八条一坊	城の里 18-15、18-16	木造2階建	3月9・10日	GL~62cmの掘削。盛土のみを確認。
19437	長岡京跡右京四条三坊 乙調寺	今里三丁目 3-3、5-3、6 の一部	木造2階建	3月11日	GL~330cmの掘削。盛土のみを確認。
19438	長岡京跡右京八条一坊	勝竜寺巡り原 15-35	木造3階建	3月12日	柱状改良工事、GL~300cmの掘削。GL~200~300cmで灰色粘質土の堆積土を確認。

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
19439	長岡京跡右京三条一坊	龜ノ町一丁目 15~31	木造2階建	3月13日	GL~30cm の掘削。盛土のみを確認。
19440	長岡京跡右京三条一坊	龜ノ町一丁目 15~32	木造2階建	3月13日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
19441	長岡京跡右京三条三坊 今里道跡 井ノ内遺跡	今里四丁目 230~13、230~14	鉄骨2階建	3月16日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
19442	長岡京跡右京三条二坊	柴の里 10~88	木造2階建	3月16日	GL~40~50cm の掘削。盛土のみを確認。
19443	長岡京跡左京五条二坊 馬場遺跡	馬場園所 19~5	木造2階建	3月18日	GL~50cmまでの掘削。盛土のみを確認。
19444	長岡京跡右京五条二坊	開田一丁目 19~6	木造2階建	3月18日	GL~50cm の掘削。盛土のみを確認。
19445	長岡京跡右京七条四坊	下海印寺西明寺 10~31、 西山田 41~9	木造2階建	3月23日	柱状改良工事、GL~310cm の掘削。盛土のみを確認。基礎、GL~35~40cm の掘削。盛土のみを確認。
19446	長岡京跡右京七条四坊	下海印寺川向井 5~22	木造2階建	3月19日	GL~50cm の掘削。盛土のみを確認。
19448	長岡京跡開通遺跡	長法寺南谷 9~7	木造2階建	3月26日	柱状改良工事、GL~330cm の掘削。GL~145cmで青灰色粘質土の地山を確認。
19449	長岡京跡右京二条三坊 上里道跡	井ノ内北内畠 6~7の一部、 6~8の一部	木造2階建	3月26日	GL~35cm の掘削。盛土のみを確認。
19450	長岡京跡右京二条三坊 上里道跡	井ノ内北内畠 6~7の一部、 6~8の一部	木造2階建	3月26日	GL~45cm の掘削。盛土のみを確認。
19451	長岡京跡右京二条三坊 上里道跡	井ノ内北内畠 6~7の一部	木造2階建	3月26日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
19452	長岡京跡右京四条三坊 今里道跡 乙訓寺	今里三丁目 7~1 の一部	木造2階建	3月26日	GL~50cm の掘削。盛土のみを確認。
19453	長岡京跡右京五条二坊 開田遺跡	開田一丁目 120~20、120~16	鉄筋2階建	3月26日	GL~21cm の掘削。表土のみを確認。
19454	長岡京跡右京四条四坊	長法寺北島 30~9	木造2階建	3月27日	GL~70cm の掘削。盛土のみを確認。
19455	奥海印寺遺跡	奥海印寺野辺田 7~15	木造2階建	3月30日	GL~35cm の掘削。GL~10cmで黄色粘質土の堆積土を確認。
19456	長岡京跡右京九条二坊 宿道跡 松田道跡	調子三丁目 1~1	鉄筋1階建	3月30日	柱状改良工事、GL~210cm の掘削。GL~200cmで地山を確認。
19457	西山田遺跡	下海印寺菩提寺地内	圃場整備	3月30日	GL~50cmまでの掘削。盛土のみを確認。
19458	長岡京跡右京六条二坊 開田遺跡	開田三丁目 10~24	木造2階建	3月23日	表土のみ掘削。
19459	長岡京跡右京五条四坊	奥海印寺東代地内	宅地造成	3月30日	GL~20cm の掘削。盛土のみを確認。

付表-4 長岡市内遺跡詳細分布調査一覧表-2（令和2年4月～11月）

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
20001	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足森本20-5	鉄骨3階建	4月1・2・ 6・7・9日	柱状改良工事、GL-350cmの掘削。GL-100～150cmの掘削。GL-70cmまで盛土、-90cmまで旧耕作土、-105cmまで青灰色粘質土、以下、緑灰色～黃色粘質土の地山を確認。
20003	長岡京跡右京四条四坊 今里遺跡	うぐいす台116	木造2階建	4月2日	GL-30～100cmの掘削。盛土のみを確認。
20004	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足四ノ坪12-56	木造2階建	4月2・10日	GL-30cmの掘削。盛土のみを確認。
20005	長岡京跡右京八条四坊	下海印寺西明寺10-21、 西山田41-2	木造2階建	4月2・14日	柱状改良工事、GL-325cmの掘削。GL-140cmまで盛土。基礎 GL-30cmの掘削。盛土のみを確認。
20006	奥海印寺遺跡	奥海印寺戸木14-8	木造3階建	4月2日	GL-50cmの掘削。盛土のみを確認。
20007	長岡京跡右京七条二坊 開田遺跡	神足三丁目211-3、211-4(の一部)	鉄骨2階建	4月6日、 7月20日	犬川右岸の畑作地。GL-35～60cmの掘削。GL-35cmまでの耕作土下、床土を確認。宅地内水上道枚菅込工事、GL-180cmの掘削。既設管により掘削を受け、盛土のみを確認。
20008	長岡京跡右京七条一坊	神足二丁目605-55	木造3階建	4月9日、 6月8・15日	柱状改良工事、GL-300cmの掘削。GL-105～120cm盛土下、暗褐色粘質土を確認。基礎 GL-60cm前後の掘削。盛土のみを確認。
20009	長岡京跡左京六条一坊	神足四ノ坪12-51	木造2階建	4月10・15日	柱状改良工事、GL-550cmの掘削。GL-40～50cmの盛土下、暗褐色粘質土の堆積土を確認。旧耕土とみられる。北西地点ではGL-120cmで緑灰色砂礫～粗沙混じり粘質土の地山を確認。
20011	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目230-50	木造2階建	4月15日	GL-80cmで黄白色粘質土の地山を確認。
20012	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊2-1他1 筆の内一部	木造2階建	4月16日	GL-46cmの掘削。GL-25cmまでの盛土下、耕作土、床土を確認。
20013	長岡京跡右京六条一坊 神足道跡 勝龜寺跡(逝世)	東神足二丁目501の一部	鉄骨2階建	4月16・17・ 27日	マンションモルーム建設工事、GL-30cmの掘削。盛土のみを確認。
20014	長岡京跡右京四条二坊	長岡一丁目50-4、50-7	木造2階建	4月16日、 8月31日	GL-30cmの掘削。盛土のみを確認。
20015	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目15-10	木造2階建	4月17日	GL-65cmの掘削。旧耕作土下で黄白色粘質土の地山を確認。
20016	長岡京跡右京六条四坊	天神二丁目101-81	木造2階建	4月21日、 5月26日、 8月18・21日	擁壁工事、GL-200cmの掘削。盛土のみを確認。柱状改良工事、GL-100～330cmの掘削。盛土のみを確認。基礎 GL-20cmの掘削。盛土のみを確認。
20018	長岡京跡左京八条一坊	城の里10-23	木造2階建	4月21日	GL-200cmの掘削。盛土のみを確認。
20019	長岡京跡左京八条一坊	城の里10-11	木造2階建	4月21日	GL-70cmの掘削。盛土のみを確認。
20020	長岡京跡右京八条一坊 南栗ヶ塚遺跡	久賀二丁目401-4	木造2階建	4月23日	柱状改良工事、GL-48cmの掘削。盛土のみを確認。
20021	長岡京跡右京三条三坊 井ノ内遺跡	井ノ内横ヶ端1-35	木造2階建	4月24日	GL-35cmの掘削。盛土のみを確認。
20022	長岡京跡右京三条二坊	今里川原町2-70	木造2階建	4月24日	GL-53cmの掘削。盛土のみを確認。
20024	長岡京跡左京八条一坊	城の里22-6	木造2階建	4月28日、 5月25日	GL-105cmの掘削。盛土のみを確認。
20025	長岡京跡右京五条二坊	長岡一丁目221-51	木造2階建	4月30日、 5月11日	柱状改良工事、GL-180cmの掘削。土層の観察はできなかった。基礎、GL-25cmの掘削。盛土のみを確認。

調査 次数	遺跡名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
20026	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条5-6	木造2階建	5月1・8・25日	柱状改良工事、GL-300cmの掘削。GL-100cmで、黄褐色粘質土の地山を確認。配管工事、GL-50cmまでの掘削。盛土のみを確認。
20027	長岡京跡右京四条二坊	長岡三丁目401-3	木造2階建	5月1日	GL-45cmの掘削。盛土のみを確認。
20028	長岡京跡右京九条三坊	調子二丁目345-4	木造2階建	5月7日	GL-43cmまでの掘削。盛土のみを確認。
20029	長岡京跡開闢遺跡	長法寺南谷9-7	木造2階建	5月20日	GL-45cmの掘削。盛土のみを確認。
20030	長岡京跡右京八条三坊 友岡遺跡 新岡廃寺	友岡四丁目3-1	鉄骨3階建	5月11・12日、8月17～19日	本文中に内容を記載。
20031	長岡京跡右京六条二坊 開田遺跡 開田古墳群	開田二丁目117-8、117-9の一部、117-10、117-11の一部	木造2階建	5月11日	GL-35cmの掘削。盛土のみを確認。
20032	長岡京跡右京三条三坊 今里遺跡 乙訓寺	今里四丁目127-3	木造2階建	5月12・28日	GL-75cmの掘削。盛土のみを確認。
20033	長岡京跡右京四条二坊	野添一丁目6-26	宅地内車庫建設	5月12日	GL-65cmの掘削。盛土のみを確認。
20034	長岡京跡右京三条三坊 井ノ内遺跡	井ノ内横ヶ塙1-15	木造2階建	5月15日	GL-73cmの掘削。盛土のみを確認。
20035	長岡京跡右京五条一坊	開田一丁目15-11	宅地内ガス 栓管理設	5月15日	GL-100cmの掘削。工事が進行し、土解の觀察はできなかった。
20036	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊2-1他1 築の内一部	木造2階建	5月18日	GL-45cmの掘削。盛土のみを確認。
20037	長岡京跡右京三条二坊	今里貝田11-5、31	鉄骨2階建	5月18・19日	GL-45～48cmの掘削。GL-45cmで暗灰色 シルト質極細砂の旧耕作土を確認。
20038	長岡京跡右京四条二坊	柴の里1-100	木造2階建	5月19日	GL-48cmの掘削。盛土のみを確認。
20039	長岡京跡右京三条三坊 今里遺跡	今里四丁目30-17	木造3階建	5月20・28日、6月8日	柱状改良工事、GL-450cmの掘削。GL-30cmまで盛土を確認。基礎 GL-30cmの掘削。盛土のみを確認。
20040	長岡京跡右京八条二坊 友岡遺跡	友岡二丁目17-2	その他	5月20日	盛土内掘削。
20041	長岡京跡右京八条一坊 筋龍寺城跡（中世）	筋龍寺215-69	木造3階建	5月25日	柱状改良工事、GL-480～550cmの掘削。GL-140cmまでは盛土。
20042	長岡京跡右京六条四坊	天神二丁目26-10	その他	5月25日	GL-10cmの掘削。盛土のみを確認。
20043	長岡京跡右京六条二坊 雲宮遺跡	神足四ノ坪5-14	鉄骨2階建	5月27日、 6月2日	柱状改良工事、GL-125cmの掘削。GL-55～60cmまで盛土。-70cmまで旧耕土。-96～100cmまで旧耕土、耕作土。以下、黄色粘質土混じり灰色粘質土の地山を確認。基礎、GL-32cmの掘削。盛土のみを確認。
20044	長岡京跡右京四条三坊 今里遺跡 乙訓寺	今里三丁目122-15の一部 (1号棟)	木造2階建	5月27日	GL-44cmの掘削。盛土のみを確認。
20045	長岡京跡右京四条三坊 今里遺跡 乙訓寺	今里三丁目122-15の一部 (2号棟)	木造2階建	5月27日	GL-35cmの掘削。盛土のみを確認。
20046	長岡京跡右京五条二坊	長岡一丁目地先	電柱設置	5月28日	GL-150cmの掘削。盛土のみを確認。
20047	長岡京跡右京四条四坊 長法寺遺跡	長法寺清水ヶ瀬5-21	鉄骨2階建	5月29日	GL-30cmの掘削。盛土のみを確認。

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
20048	長岡京跡右京七条三坊 友岡遺跡	花山二丁目地先	電柱支線設置	6月1日	GL~170cm の掘削。盛土のみを確認。
20049	長岡京跡右京八条二坊	久貝一丁目 1~46	携帯電話基地局設置	6月1日	GL~370cm の掘削。GL~40cm まで現耕作土、床土、~85cm まで旧耕作土、以下に明褐色粘質土の地山を確認。
20050	長岡京跡右京五条二坊	長岡二丁目 6~19	木造2階建	6月1日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
20051	長岡京跡右京三条四坊 今里遺跡	今里産林 18~21	木造2階建	6月1日	GL~60cm の掘削。盛土のみを確認。
20052	長岡京跡右京五条三坊 東代遺跡	天神三丁目 7~30	宅地内上水道管敷設	6月1日	GL~170cm の掘削。盛土のみを確認。
20053	長岡京跡右京五条三坊	長岡二丁目 7~22	宅地内ガス管敷設工事	6月1日	GL~140cm の掘削。盛土のみを確認。
20054	長岡京跡右京五条一坊	馬場一丁目 104~1	木造2階建	6月1・2日	本文中に内容を記載。
20055	長岡京跡右京八条四坊	下海印寺川向井 5~14	木造2階建	6月3日	GL~23cm の掘削。盛土のみを確認。
20056	長岡京跡右京三条一坊	対ノ町一丁目 16~2 の一部	木造2階建	6月4日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
20057	長岡京跡右京三条一坊	対ノ町一丁目 16~2 の一部	木造2階建	6月4日	GL~5cm 前後の掘削。盛土のみを確認。
20058	長岡京跡右京二条二坊	対ノ町一丁目 33~1	宅地造成	6月4・11・23日	GL~135cm の掘削。GL~55cm の盛土下に旧耕作土、床土を確認。
20059	大原古墳群	河陽が丘二丁目 8~17	木造2階建	6月8日	GL~22cm の掘削。盛土のみを確認。
20060	長岡京跡右京二条三坊 上里遺跡	井ノ内上里田 2~12、3~22	木造2階建	6月8日	GL~52cm の掘削。盛土のみを確認。
20061	長岡京跡左京七条一坊	城の里 5~1	木造2階建	6月8日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
20062	長岡京跡左京七条一坊	城の里 5~18	木造2階建	6月8日	GL~35cm の掘削。盛土のみを確認。
20063	長岡京跡右京八条一坊	久貝二丁目 616~8	木造2階建	6月8日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
20064	長岡京跡右京八条一坊	久貝二丁目 616 地内	木造2階建	6月8日	GL~35~60cm の掘削。盛土のみを確認。
20065	長岡京跡右京八条一坊	久貝二丁目 616~1	木造2階建	6月9日	GL~35~60cm の掘削。盛土のみを確認。
20066	長岡京跡右京六条二坊	開田二丁目 122~2、126~3	鉄骨3階建	6月9・10・11日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
20067	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊 2~23	木造2階建	6月9日	GL~20~30cm の掘削。盛土のみを確認。
20068	長岡京跡右京六条一坊 神足道路 勝能寺守城跡(近世)	東神足一丁目 1~1	携帯電話基地局設置	6月10日	GL~315cm の掘削。GL~80cm 以下で橙褐色粘質土の地山を確認。
20069	長岡京跡右京六条四坊 東代古墳群	天神三丁目 10~10、10~11	木造2階建	6月11日	GL~26cm の掘削。盛土のみを確認。
20070	長岡京跡右京二条二坊	対ノ町二丁目 22~3 の一部	木造2階建	6月15日	GL~30~40cm の掘削。GL~35cm までの盛土下に、灰色砂質土の旧耕作土を確認。
20071	長岡京跡右京七条一坊 神足道路 勝能寺守城跡(中世)	勝竜寺 507~17	木造2階建	6月15日	GL~20~50cm の掘削。GL~35~50cm までの盛土下に、暗褐色混じり粘質土の旧地表を確認。

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
20072	長岡京跡左京七条一坊 雲宮遺跡	神足木寺町19の一部、 20	工場建設	6月15～17 日、8月17 ～21・24・ 25・27・28・ 31日、9月 1～4・7～ 9日	本文中に内容を記載。
20073	長岡京跡右京四条二坊	野添一丁目20-26、20- 65	木造3階建	6月15日	GL～50cmの掘削。盛土のみを確認。
20074	長岡京跡右京六条一坊 神足遺跡 開田古墳群 勝能寺城跡（近世）	神足一丁目222-55	木造3階建	6月15日	本文中に内容を記載。
20075	長岡京跡関連遺跡	奥海印寺太鼓山22-48の 一部、22-5の一部	木造2階建	6月22日	GL～25cmの掘削。盛土のみを確認。
20076	長岡京跡関連遺跡	奥海印寺太鼓山22-48の 一部、22-5の一部	木造2階建	6月22・23 日	本文中に内容を記載。
20077	長岡京跡右京八条四坊	下海印寺西明寺10-37	木造2階建	6月22日	柱状改良工事、GL～130cmまで認証可視。盛土のみを確認。南西側ではGL～25cm以下で黄色砂混じり粘質土の地山を確認。
20078	長岡京跡右京七条三坊 十三道跡	天神一丁目128-13	鉄骨3階建	6月22・25 日	GL～58cmの掘削。盛土のみを確認。
20079	長岡京跡右京二条二坊	庵ノ町二丁目33-9	木造2階建	6月23日	GL～20cmの掘削。盛土のみを確認。
20080	長岡京跡右京四条三坊	今里一丁目117-2、117- 3、118-1、118-2	木造1階建	6月25日	GL～35cmの掘削。盛土のみを確認。調査地に東・南接する水田との比高は40cmで、当地は盛土されている。
20081	長岡京跡右京八条四坊	下海印寺西明寺10-36	木造2階建	6月26日、 8月18日	柱状改良工事、GL～175cmの掘削。盛土のみを確認。基礎、GL～30cmの掘削。盛土のみを確認。
20082	長岡京跡左京五条一坊 馬場遺跡	馬場川原41-21の一部	鉄骨2階建	6月26日	GL～44cmの掘削。盛土のみを確認。
20083	長岡京跡右京七条四坊	梅が丘二丁目14	木造2階建	6月29日	GL～45～118cmの掘削。GL～25～40cmまでの盛土下で、暗赤褐色混じり粗砂～砂質土(粘土塊所々に含む)、浅黄色粘質土～粗砂の地山を確認。
20084	長岡京跡右京四条二坊	野添一丁目7-57、7-25	木造2階建	6月29日、 7月1日	柱状改良工事、深度3.5m、計28本、GL～350cmの掘削。穿孔機による空洞り隙隙がなく、直接改良材注入作業のため、観察不能。基礎、GL～65cmまでの掘削。盛土のみを確認。
20085	長岡京跡左京七条一坊	神足太田3-24、5-7	木造3階建	6月29日、 7月3日、9 月2日	柱状改良工事、GL～530cmの掘削。盛土のみを確認。基礎、GL～70cmの掘削。盛土のみを確認。ガス技管引込設置工事、GL～128cmの掘削。盛土のみを確認。
20086	長岡京跡右京七条二坊 開田遺跡	神足三丁目218-1	鉄骨3階建	7月1日	GL～140cmの掘削。盛土のみを確認。
20087	長岡京跡右京七条二坊 開田遺跡	神足三丁目208-17	鉄骨2階建	7月1日	GL～46cmの掘削。盛土のみを確認。
20089	長岡京跡右京五条二坊	奥海印寺東代51-8の一部	木造2階建	7月2・7日、 9月18日	柱状改良工事、GL～300cmの掘削。GL～80cmの旧耕作土下で黄褐色粘質土の地山を確認。基礎、GL～25～30cmの掘削。盛土のみを確認。宅地内ガス技管引込工事、GL～70cmの掘削。盛土のみを確認。
20090	長岡京跡左京五条二坊 馬場遺跡	馬場園所27	鉄骨1階建	7月3・7・ 8・10・13・ 15日	GL～130cmの掘削。盛土のみを確認。
20091	長岡京跡右京八条二坊	友岡三丁目37-1の一部	鉄骨2階建	7月6日、 8月17日	GL～175cmの掘削。GL～48cmで褐色砂混じり砂質土、暗赤黒褐～褐色砂質土に到達する。後者は堅く締まる堆積層で、遺物包含層の可能性がある。

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
20092	長岡京跡右京四条三坊 今里遺跡 乙訓寺	今里三丁目 7-3	木造 2階建	7月 6日	GL~70cm の振削。盛土のみを確認。
20093	長岡京跡右京三条四坊 今里遺跡	今里彦林 18-13	木造 2階建	7月 8日	GL~20cm の振削。盛土のみを確認。
20094	長岡京跡右京五条三坊 宇律久志古墳群	天神五丁目 26-4、27-10	木造 2階建	7月 8・20・ 21日	GL~118cm の振削。GL~53cm で褐色粘質土の地山を確認。
20095	長岡京跡右京七条四坊 下海印寺遺跡	奥海印寺森ノ下 12-10 南	宅地造成	7月 10日	GL~40 ~ 100cm の振削。盛土のみを確認。
20096	長岡京跡右京七条四坊 下海印寺遺跡	下海印寺東山地内	その他	7月 10・20・ 21日	GL~15cm の振削。盛土のみを確認。
20097	長岡京跡左京五条一坊 馬場遺跡	神足堂ヶ内地内	駐車場造成	7月 10・21 日	本文中に内容を記載。
20098	長岡京跡左京五条二坊 馬場遺跡	馬場園所 19-5	木造 2階建	7月 13日	GL~35cm の振削。盛土のみを確認。
20099	大原古墳群	河陽か丘 2 丁目 5-1	木造 2階建	7月 14日	GL~55cm の振削。盛土のみを確認。
20100	長岡京跡右京五条二坊 開田古墳群	長岡一丁目 309-3, 309- 44, 309-45	鉄骨 2階建	7月 15日	GL~40cm の振削。GL~40cm までの盛土下、 調査地東側一部で褐色砂質土を地盤とする調 査状況 1 条検出。褐色色砂質土の地盤には泥 炭を含む。地盤の広がりは把握できず、盛土 の可能性もある。磁器が散布するが、近代以 降の所産とみられる。
20101	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足星敷地内	木造 1階建	7月 15日	GL~20cm の振削。盛土のみを確認。
20102	長岡京跡右京五条四坊 長法寺遺跡	長法寺清水ヶ瀬 5番 62	木造 2階建	7月 16日	GL~30cm の振削。盛土のみを確認。
20103	長岡京跡左京六条一坊	神足星敷 34 の一部	鉄骨 3階建	7月 16・21 日	柱状改良工事、GL~220cm までの振削。GL~ 15cm までの旧表土下、明褐色粘質土の地山 を確認。基礎、GL~25cm の振削。GL~20cm まで旧表土を確認。以下、明褐色粘質土の地 山を確認。
20104	長岡京跡左京六条一坊	神足星敷 34 の一部	鉄骨 2階建	7月 16・17・ 27日	柱状改良工事、GL~170cm までの振削。GL~ 25cm までの旧表土下、にぶい黄褐色粗砂混 じり砂質土の堆積層を確認。南側の第 20103 次調査では明褐色粘質土の地山を確認してい るが、北方では砂へと変化している。河川堆 積作用の結果である。基礎、GL~30cm の振 削。盛土のみを確認。
20105	長岡京跡右京七条四坊 下海印寺遺跡	下海印寺北条 26-7	木造	7月 16日	GL~20cm の振削。盛土のみを確認。
20106	長岡京跡右京八条二坊 友岡遺跡	調子一丁目 27-75	木造	7月 17・21 日	柱状改良工事、GL~175cm の振削。GL~ 80cm で地山を確認。基礎、GL~36cm の振削。 盛土のみを確認。
20107	長岡京跡左京六条一坊	神足星敷 32, 31-2	木造 2階建	7月 17日	GL~30cm の振削。盛土のみを確認。
20108	長岡京跡右京七条四坊 下海印寺遺跡	奥海印寺下条 12-9	鉄骨 2階建	7月 20日	GL~95cm の振削。GL~85cm で旧床土を確認。
20109	長岡京跡右京八条四坊	下海印寺西明寺 10-27	木造 2階建	7月 20日	07/18 混土柱状改良工事、深度 1.0m 以上、 計 26 本実施。GL~100cm 以上の振削。工 事進行の為、表土のみを確認。
20110	長岡京跡右京七条三坊	花山一丁目 60 番	鉄骨一階建・ 擁壁工事	9月 3日	擁壁工事、GL~8cm までの盛土下で、褐色粘 土、灰白色粘土が堆積する地山を確認。基礎、 GL~35 ~ 60cm の振削。盛土のみを確認。
20111	長岡京跡右京八条二坊	緑が丘 101-14	木造 2階建	7月 20日	GL~40cm の振削。盛土のみを確認。

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
20112	長岡京跡右京六条四坊	天神二丁目 21-58	木造2階建	7月20日	すでに基礎工事は終了していた。
20113	長岡京跡右京五条一坊 開田古墳群	神足一丁目 17-3	木造2階建	7月21日	GL~36cm の掘削。盛土のみを確認。
20114	長岡京跡右京四条三坊	今里一丁目地内	農業用温室 基礎工事	7月21日	GL~50cm の掘削。GL~35cm で床土を確認。
20115	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目 13-1, 13-3, 13-5, 13-9, 107 の一部。 市有地	宅地造成	7月21日	すでに基礎工事は終了していた。
20116	長岡京跡右京四条三坊 陶器町遺跡	長岡三丁目 25-52	木造3階建	7月22日	すでに基礎工事は終了していた。
20117	奥海印寺遺跡	奥海印寺北垣外 12-1	住宅建設	7月22日	すでに基礎工事は終了していた。
20118	長岡京跡右京四条三坊	栗生田内 28-48	木造2階建	7月27日	GL~85cm の掘削。盛土のみを確認。
20119	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足森本 15-22	木造2階建	7月27日	GL~24cm の掘削。盛土のみを確認。
20120	長岡京跡右京七条四坊 下海印寺遺跡	奥海印寺下条 10-7	木造2階建	7月27日	GL~20cm の掘削。盛土のみを確認。
20121	長岡京跡右京六条四坊	天神二丁目 110番9、 110番11	木造2階建	7月28日	GL~33cm の掘削。表土のみを確認。
20122	奥海印寺遺跡	奥海印寺多賀垣外 14-4、 15-4, 20	木造2階建	7月28日	GL~30cm の掘削。盛土のみを確認。
20123	長岡京跡右京七条三坊 友岡遺跡	花山三丁目 35-5 の一部、 35-25	木造2階建	7月30日、 8月4日	GL~60cm の掘削。盛土のみを確認。
20126	長岡京跡右京八条三坊 友岡遺跡	友岡一丁目 303-1	鉄骨3階建	8月5日	GL~70cm の掘削。盛土のみを確認。
20127	長岡京跡左京六条一坊	神足屋敷 31	木造1階建	8月5日	すでに基礎工事は終了していた。
20128	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足森本 15-1	木造2階建	8月5・11日	GL~20cm 前後の掘削。盛土のみを確認。
20129	長岡京跡右京五条四坊	天神四丁目 332-4, 332-5	木造2階建	8月5日、 9月15日	柱状改良工事、GL~100cm 以上の掘削。土層の觀察はできなかった。基礎、GL~28cm の掘削。盛土のみを確認。
20130	長岡京跡右京七条四坊 下海印寺遺跡	下海印寺北条 26-7	木造2階建	8月7日	すでに基礎工事は終了していた。
20131	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	東和苑 23-6	木造3階建	8月7日	GL~36 ~ 50cm の掘削。盛土のみを確認。
20132	長岡京跡右京九条一坊 久保古墳群	久賀三丁目 130-11、130-12、130-13、130-14	宅地造成	8月11・18日	GL~165cm の掘削。GL~50 ~ 85cm まで黒褐色粘質土の堆積または遺物包含層を確認。 以下、黄褐色粘質土の地山を確認。
20133	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足雲宮 4-6	木造2階建	8月12・26日	GL~30cm の掘削。盛土のみを確認。
20134	長岡京跡右京五条二坊	長岡一丁目 20番地内	宅地内水道 管引込工事	8月12日	GL~143cm の掘削。GL~70cm 以下で暗褐色 粗砂～砂質土を確認。
20137	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目 10-67	木造2階建	8月25日	柱状改良工事、GL~100 ~ 180cm の掘削。河 川堆積層を確認。基礎、GL~55 ~ 65cm の掘削。盛土のみを確認。
20139	長岡京跡右京八条一坊	勝寺三枚田 14	鉄骨5階建	8月18・19・ 24 ~ 26日	本文中に内容を記載。
20140	長岡京跡右京八条二坊 友岡遺跡	調子一丁目 12-14	宅地造成	8月18日	GL~150cm の掘削。GL~80 ~ 110cm まで の盛土下、黄褐色砂質土の旧耕土が層厚10 ~ 25cm で堆積する。GL~120 ~ 125cm で 黄色砂質土の堆積土に到達する。
20141	長岡京跡右京五条三坊	うぐいす台 30	鉄骨2階建	8月19日	本文中に内容を記載。

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
20142	長岡京跡右京五条三坊	長岡二丁目 226-2	鉄骨2階建	8月19日	GL~20cm 前後の掘削。表土のみを確認。
20144	長岡京跡開連道跡 谷田遺跡	奥海印寺谷田 40-16	宅地内低圧 管理設工事	8月21日	GL~150cm の掘削。GL~100cmまでの盛土 直下で橙色粘質土の地山を確認。
20145	長岡京跡開連道跡 奥海印寺遺跡	奥海印寺太鼓山 11-7	木造2階建	8月21日	GL~25cm の掘削。盛土のみを確認。
20146	長岡京跡右京七条二坊	梅ヶ丘 419-13, 419-100	木造2階建	8月21日	GL~46cm の掘削。盛土のみを確認。
20147	奥海印寺遺跡	奥海印寺南垣外 4-6	木造2階建	8月24日	GL~30~55cm の掘削。盛土のみを確認。近 代以降とみられる陶磁器片が散布する。
20148	土山遺跡	金ヶ原御所ノ内 1-4, 1-12	木造2階建	8月24日	GL~30cm の掘削。盛土のみを確認。
20149	長岡京跡右京八条一坊 南栗ヶ原跡	久賀二丁目 802-34, 213-5, 213-9, 1324-8	鉄骨2階建	8月24日	GL~20cm の掘削。盛土のみを確認。
20150	長岡京跡右京七条三坊 天神山遺跡	天神二丁目 136-1	宅地造成	8月25・26 9月2・15日	GL~500cm の掘削。GL~150~340cmで黄 ~橙色粗砂~細砂の地山を確認。
20151	長岡京跡右京七条一坊	神足二丁目 710	木造3階建	8月25日	久保金物店前、駐車場造成に伴う外構工事。 調査地南側は車止め柱材設置。調査地北端で は築設置工事。GL~30cm の掘削。表土堆積 層を確認。
20152	長岡京跡右京七条三坊	梅ヶ丘一丁目 86-1の一部	木造2階建	8月26日	GL~15~25cm の掘削。耕土、床土を確認。
20153	長岡京跡右京二条二坊 今里遺跡	井ノ内下田印 12-22	木造2階建	8月26日	GL~50cm の掘削。盛土のみを確認。
20154	長岡京跡右京五条二坊 陶器町遺跡	長岡二丁目 1-28	木造2階建	8月26日	着工済。GL~12~36cm の掘削。盛土のみを 確認。
20156	長岡京跡右京七条四坊	下海印寺西山田 17-10他	木造2階建	8月27日、 9月9日	柱状改良工事、GL~450cm の掘削。GL~54 cmまで確認。盛土のみであった。基礎、GL~ 14cm 前後の掘削。盛土のみを確認。
20157	長岡京跡右京六条四坊	天神二丁目 21-78 南側	擁壁工事	8月28日	GL~50cm の掘削。地山を確認。
20158	長岡京跡右京六条一坊 神足遺跡 開田遺跡	神足二丁目 505-6	木造3階建	8月28日、 9月8日	柱状改良工事。GL~175cm の掘削。GL~70 cmまで盛土下、旧耕土、暗褐色砂質土が削 厚10cmで堆積する。以下、黄色粘質土の地 山を確認。基礎、GL~25~80cm の掘削。表 土・盛土を確認。
20159	長岡京跡右京四条二坊	野添一丁目 27-3	木造2階建	8月28日	GL~20cm の掘削。盛土のみを確認。
20160	長岡京跡右京六条二坊	開田四丁目 715-4 の一部	木造2階建	8月28日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
20161	長岡京跡右京四条二坊	長岡一丁目 50-1, 50-5	木造2階建	8月31日	GL~45cm の掘削。盛土のみを確認。
20162	長岡京跡右京四条二坊	長岡一丁目 50-3, 50-6	木造2階建	8月31日	GL~30cm の掘削。盛土のみを確認。
20163	長岡京跡右京七条一坊	神足二丁目 710	木造3階建	8月31日	柱状改良工事。GL~175~225cm の掘削。 盛土のみを確認。
20164	長岡京跡右京八条一坊 勝龍寺城跡(中世)	勝竜寺 1110-4	木造2階建	8月31日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
20165	長岡京跡右京七条三坊	花山一丁目 32	木造2階建	8月31日、 9月14・15日	柱状改良工事。GL~190cm の掘削。GL~30 cmで橙色粘質土の堆積土を確認。GL~55cm の掘削。GL~30cmまでの盛土下、明褐色雜 混じり砂質土の地山を確認。
20166	長岡京跡右京五条四坊 長法寺遺跡	長法寺南野 2-1	鉄骨2階建	9月1・2日	本文中に内容を記載。

調査 次数	遺跡名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
20167	長岡京跡右京八条一坊	城の里 16-9	木造2階建	9月2日	GL~45cm の掘削。盛土のみを確認。
20168	長岡京跡右京四条三坊 今里遺跡	今里西ノ口 14-16	木造2階建	9月7日	GL~26cm の掘削。盛土のみを確認。
20170	長岡京跡右京七条四坊 伊賀寺遺跡	下海印寺下内田、岸ノ下、 伊賀寺の各一部	その他	9月8日	右京 1198 次調査地南東方地点。GL~60cm の掘削。GL~20cm で田耕作土。GL~40cm で暗褐色粘質土の堆積層を確認。
20171	長岡京跡右京七条四坊	下海印寺西明寺 16-14	木造2階建	9月9・11 日	柱状改良工事、GL~100cm 以上の掘削。土層 の観察はできなかった。基礎、GL~15cm ま での掘削。盛土のみを確認。
20173	長岡京跡右京五条一坊 馬場遺跡	馬場見場走り 5-14、10- 14、45	木造3階建	9月14日	柱状改良工事、GL~175cm の掘削。GL~45cm まで盛土。GL~80cm まで旧耕土とみられる 堆積土。以下、湿地性堆積層を確認。
20174	長岡京跡右京七条一坊 開田遺跡	神足二丁目 107	鉄骨3階建	9月14~17 日	本文中に内容を記載。
20175	長岡京跡右京九条二坊 宿跡	調子三丁目 1番地の 1	井戸の設置	9月15日	GL~8000cm の掘削。土層の観察はできなかっ た。
20176	長岡京跡右京六条三坊 西陣町遺跡	天神二丁目 35-24	木造2階建	9月15日	GL~200cm の掘削。土層の観察はできなかっ た。
20177	長岡京跡右京三条三坊 今里遺跡 乙調寺	今里四丁目 127-2	木造2階建	9月16日	GL~46~50cm の掘削。盛土のみを確認。
20178	長岡京跡右京六条三坊	天神一丁目 714-1 他	宅地造成	9月16・17 日	GL~140cm の掘削。盛土のみを確認。
20179	包蔵地外	金ヶ原南谷 14-16	木造2階建	9月16日	すでに基礎工事は終了していた。
20180	包蔵地外	金ヶ原南谷 21-20	木造2階建	9月16日	道路パトロールとして実施。GL~45cm の掘削。 盛土のみを確認。
20181	長岡京跡右京一条二坊	龜ノ町二丁目 104-18、 229-4	木造2階建	9月17日	GL~25cm の掘削。盛土のみを確認。
20182	長岡京跡左京六条一坊 雪宮遺跡	神足四ノ坪 15-16	木造3階建	9月18・28 日	柱状改良工事、GL~100cm 以上の掘削。土層 の観察はできなかった。基礎、GL~40~ 45cm の掘削。盛土のみを確認。
20183	長岡京跡左京七条二坊 雪宮遺跡	神足七ノ坪 8、9	鉄骨2階建	9月18日	GL~140cm の盛土。
20184	長岡京跡右京四条二坊	長岡三丁目 50-7	鉄骨2階建	9月23日	柱状改良工事、GL~290cm の掘削。土層の観 察はできなかった。
20185	長岡京跡右京六条二坊 開田城ノ内遺跡	天神一丁目 8-14、8-15、 8-16、8-26	木造2階建	9月24日	盛土内工事。
20186	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目 15-6	木造2階建	9月25日	GL~52cm の掘削。盛土のみを確認。
20187	長岡京跡右京七条一坊 神足遺跡 勝龍寺城跡（中世）	東神足二丁目 210-1	下水道取付 管理設	9月25日	すでに工事は終了していた。
20188	長岡京跡右京六条二坊 開田遺跡	開田三丁目 110-6	木造2階建	9月25日	GL~50cm の掘削。盛土のみを確認。
20189	長岡京跡開闢遺跡	長法寺南谷 9-5	木造3階建	9月25日	GL~15cm の掘削。盛土のみを確認。
20190	長岡京跡右京八条一坊 南渠ヶ塚遺跡	久貝二丁目 401-5	木造2階建	9月28日	GL~42cm の掘削。盛土のみを確認。
20191	長岡京跡右京二条二坊	龜ノ町二丁目 22-10	木造2階建	9月28日	GL~35cm の掘削。盛土のみを確認。
20192	長岡京跡右京二条二坊	井ノ内下田田 10-6 の一部	木造2階建	9月28日	本文中に内容を記載。

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
20193	長岡京跡右京五条四坊	天神四丁目 57-7	木造2階建	9月28日	GL~40cmの振削。盛土のみを確認。
20194	長岡京跡右京二条二坊	井ノ内下印田 10-6 の一部	木造2階建	9月29日	柱状改良工事、土層の観察はできなかった。
20195	長岡京跡右京八条二坊 友岡遺跡	潤子一丁目 71-115	木造2階建	9月29日	すでに工事は終了していた。
20196	長岡京跡左京二条六坊 雲宮遺跡 櫛次遺跡	神足橋本5	鉄骨2階建	9月30日	GL~1000cmまでの柱状改良のみ。
20197	長岡京跡右京八条一坊 筋龍寺城跡（中世）	勝竜寺 117-15	鉄骨2階建	9月30日	GL~20cmの振削 盛土のみを確認。
20199	長岡京跡右京八条一坊 南渠ヶ塚遺跡	久賀二丁目 616-9	木造2階建	10月2日	振削工事はすでに終了していた。GL~30cmの振削 盛土のみを確認。
20201	長岡京跡右京四条四坊 長法寺遺跡	長法寺中島 4-1	鉄骨2階建	10月6・16日	柱状改良工事、GL~250cmの振削。黄褐色系粘質土の地山の堆積を確認。GL~30cmの振削。耕作土直下のGL~20cmで淡黃白色粘質土層の堆積を確認。
20202	長岡京跡右京七条一坊 神足遺跡	神足二丁目 316-2, 317-2 の一部、318-1 の一部、319-2 の一部、320-1 の一部	鉄骨3階建	10月7日	GL~20cmの振削。盛土のみを確認。
20203	長岡京跡右京六条二坊 雲宮遺跡	神足神田 15-1, 15-4	携帯電話基地局設置	10月7日	GL~40cmの振削。盛土のみを確認。
20204	長岡京跡右京七条四坊	下海印寺上内田 85-1	鉄骨2階建	10月12日	GL~30cmの振削。表土層のみを確認。
20205	長岡京跡右京五条三坊 開田城／内遺跡	長岡二丁目地内	歩道改修	10月13・19・20・28日	GL~85cmの振削。盛土のみを確認。
20206	長岡京跡右京三条一坊	今里川原 7-44	木造2階建	10月14日	GL~60cmの振削。盛土のみを確認。
20207	長岡京跡右京七条一坊	神足二丁目 605-42	木造3階建	10月14日	柱状地盤改良工事、GL~330cmの振削。盛土を確認できたのみである。
20208	長岡京跡右京七条三坊	天神二丁目 137-29	木造2階建	10月14日	進入路の切り土工事。GL~40~100cmの振削。振削底面で大阪層群の地山を確認。
20209	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊 2-1 他 1 箇の内一部（2号地）	木造2階建	10月14日	GL~40cmの振削。盛土のみを確認。
20210	長岡京跡右京五条三坊 陶器町遺跡	天神五丁目 230-42	鉄骨3階建	10月16・28日	柱状地盤改良工事、GL~380cmまでの振削。基礎、GL~70cm、一部 GL~140cmの振削。盛土のみを確認。
20212	長岡京跡右京五条二坊	長岡一丁目 221-32	鉄骨2階建	10月22日	GL~10cmの振削。盛土のみを確認。
20213	長岡京跡右京三条三坊	今里四丁目 253-35	木造2階建	10月22日	GL~20cm、一部 GL~70cmの振削。盛土のみを確認。
20214	奥海印寺遺跡	奥海印寺北垣外 12-1	木造2階建	10月23・26日	柱状改良工事、GL~300cmの振削。土層は観察できなかった。GL~80cmの振削。GL~30cmで耕作土、GL~50cmで黄色粘質土層の堆積を確認。
20215	長岡京跡右京八条三坊	下海印寺向井 5-7	木造2階建	10月26日	GL~40cmの振削。盛土のみを確認。
20216	長岡京跡右京三条三坊 開田遺跡	開田三丁目 2-4	木造2階建	10月26日	GL~30cmの振削。盛土のみを確認。
20218	長岡京跡右京四条二坊 今里北／町遺跡	野添二丁目 134-22, 134-23	水道管引込み	10月27日	GL~140cmの振削。湧水が顯著で、盛土のみを確認。
20219	長岡京跡右京六条四坊	天神二丁目 111-3	木造2階建	10月28日	GL~30cmの振削。盛土のみを確認。
20220	長岡京跡右京七条四坊	下海印寺西明寺 10-41	木造2階建	10月28日	柱状地盤改良工事、GL~170cmの振削。盛土内に収まるようである。

調査 次数	遺跡名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
20221	長岡京跡右京五条四坊	天神四丁目 333-1	携帯電話基 地局設置	10月 29日	ドリルにより GL~300cm の掘削。GL~50cm で地山を確認した。
20222	長岡京跡右京七条四坊	下海印寺西明寺 10-35	木造 2階建	10月 29日、 11月 2日	柱状改良工事、GL~250cm の掘削。土層の観 察はできなかった。基礎、GL~30cm の掘削。 盛土のみを確認。
20223	長岡京跡関連遺跡	奥海印寺太鼓山 22~48 の 一部、22-5 の一部	木造 2階建	10月 30日	GL~25cm の掘削。盛土のみを確認。
20225	長岡京跡右京四条二坊 今里道跡 今里北ノ町道跡	今里北ノ町 3-3	木造 2階建	11月 5・6 日	柱状改良工事、GL~440cm の掘削。土層の観 察はできなかった。基礎、GL~30cm の掘削。 盛土のみを確認。
20226	長岡京跡左京六条一坊 神足道跡	神足森本 15-23	木造 2階建	11月 6日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
20227	長岡京跡左京六条一坊 雲宮道跡	神足森本 15-19	木造 2階建	11月 6日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
20228	長岡京跡右京八条四坊 監山道路	下海印寺南谷 44-3	木造 2階建	11月 9日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
20229	長岡京跡左京六条一坊 雲宮道跡	神足雲宮 4-7	木造 2階建	11月 9日	敷地の南部のみ柱状地盤改良工事。工事はす ぐに終了していた。
20230	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目 105-5	木造 2階建	11月 10日	GL~20cm の掘削。盛土のみを確認。
20231	長岡京跡右京八条四坊 伊賀寺道跡	下海印寺岸ノ下の一部	調整池	11月 10~12 日	GL~350cm の掘削。盛土直下の GL~250cm で大阪層群の地山を確認した。
20232	長岡京跡右京五条三坊 東門道跡	天神四丁目 77-22 の一部	木造 2階建	11月 16日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
20233	長岡京跡右京四条三坊 今里道跡 乙訓寺	今里三丁目 3-37	木造 2階建	11月 18日	既に基礎工事は終了していた。GL~40cm の 掘削。盛土内に収まる。
20234	長岡京跡右京四条三坊 今里道跡 乙訓寺	今里三丁目 3-3	木造 2階建	11月 18日	既に基礎工事は終了していた。GL~30cm の 掘削。盛土内に収まる。
20235	長岡京跡右京八条二坊 友岡道跡	調子一丁目 71-134	木造 2階建	11月 18日	GL~60cm の掘削。盛土のみを確認。
20236	長岡京跡右京八条三坊	下海印寺川向井 5-15	木造 2階建	11月 19日	GL~20cm の掘削。盛土のみを確認。
20237	長岡京跡右京八条二坊	縁が丘 5-52	木造 3階建	11月 19日	GL~20cm、一部 GL~50cm の掘削。GL~20 cm で橙褐色粘土質の地山を確認。
20238	長岡京跡右京四条一坊	-文橋二丁目 4-17、3- 38	木造 2階建	11月 24日	基礎工事は 11月 21 日 (土) に終了していた。 GL~40cm の掘削。盛土内に収まる。
20239	長岡京跡右京八条三坊	調子一丁目 71-64 の一部	木造 2階建	11月 24日	GL~20cm の掘削。盛土のみを確認。
20240	長岡京跡右京八条三坊	調子一丁目 71-64 の一部	木造 2階建	11月 25日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
20241	長岡京跡左京七条一坊	城の里 6-19	木造 2階建	11月 25・30 日	柱状改良工事、土層の確認はできなかった。 基礎、GL~30cm の掘削 盛土のみを確認。
20243	長岡京跡左京七条一坊	城の里 6-20	木造 2階建	11月 26・30 日	柱状改良工事、GL~600cm の掘削。土層の観 察はできなかった。基礎、GL~20cm の掘削。 盛土のみを確認。
20244	長岡京跡右京八条一坊 南栗ヶ塚遺跡	久貝二丁目 401-6	鉄骨 2階建	11月 26日	GL~40 ~ 50cm の掘削。盛土のみを確認。
20245	長岡京跡右京八条三坊	友岡川原 29-12、29-17	木造 3階建	11月 27日	GL~25cm の掘削。盛土のみを確認。
20246	長岡京跡左京七条一坊	城の里 6-14	木造 2階建	11月 27日	柱状改良工事、GL~580cm の掘削。土層の観 察はできなかった。
20247	長岡京跡左京六条一坊 -2	神足屋敷 37 の一部、38- 1 の一部、53、53-1、53 -2	鉄骨 2階建	11月 27日	柱状改良工事、GL~550cm の掘削。土層の観 察はできなかった。

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
20248	長岡京跡右京四条三坊 今里遺跡	今里一丁目 203	木造2階建	11月28日	すでに工事は終了していた。GL-15cmの掘削。盛土のみを確認。
20249	長岡京跡右京三条三坊 今里遺跡	今里五丁目 115 の一部	木造2階建	11月30日	既に基礎工事は終了していた。大部分は掘削のない土盛りで、一部が GL-15cm まで掘削されていた。盛土内に収まる。
20250	長岡京跡右京四条四坊 長法寺遺跡	長法寺清水ヶ瀬 13-4	木造2階建	11月30日	柱状改良工事。GL~550cmの掘削。土層の観察はできなかった。

付表-5 報告書抄録

ふりがな	ながおかきょうしぶんかざいちょうさはうこくしょ
書名	長岡市文化財調査報告書
調書名	長岡市文化財調査報告書
シリーズ名	第76冊
編著者名	福家恭、山下研、金原美奈子、金原裕美子、星野安治
編集機関	公益財團法人長岡市埋蔵文化財センター
所在地	〒617-0853 京都府長岡市奥海印寺東条10番地の1

所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
今里遺跡 乙訓寺 長岡京跡 (右京四条三坊八町)	長岡京市今里四丁目 地内	26209	32	34°56'09"	135°41'23"	2020.10.12 ~ 2020.10.20	145m ²	範囲確認
			28					
			107					
開城ノ内遺跡 十三遺跡 長岡京跡 (右京六条三坊三町)	長岡京市天神一丁目 212-2	26209	73	34°55'23"	135°41'25"	2020.10.19 ~ 2020.10.30	33m ²	範囲確認
			76					
			107					
南東ヶ原遺跡 長岡京跡 (右京九条一坊八町)	長岡京市久貝三丁目 27-2	26209	103	34°54'38"	135°42'02"	2020.01.15	~ 2階建	本造
			107					
御所遺跡 長岡京跡 (右京四条二坊十三町)	長岡京市長岡三丁目 37-6	26209	47	34°55'57"	135°41'34"	2020.02.25	~ 2階建	本造
			107					
			97					
友岡道路 輪阿彌寺 長岡京跡 (右京八条三坊七・八町)	長岡京市友岡四丁目 3-1	26209	98	34°54'55"	135°41'22"	2020.05.11 - 0512 - 0817 ~ 0819	~ 3階建	鉄骨
			107					
			88					
長岡京跡 (右京五条一坊十一町)	長岡京市馬場一丁目 104-1	26209	107	34°55'43"	135°41'57"	2020.06.01 - 0602	~ 2階建	本造
			83					
神足遺跡 開田古墳群 近世藤籠寺城跡 長岡京跡 (右京六条一坊十町)	長岡京市神足本町 19 の一部他	26209	63	34°55'29"	135°41'59"	2020.06.15	~ 2階建	工場建設
			84-2					
			107					
			83					
長岡京跡遺道跡 長岡京跡 (左京七条一坊十一町)	長岡京市奥海印寺 太鼓山22-48 の一部他	26209	201	34°55'27"	135°40'46"	2020.06.22 - 0623	~ 2階建	本造
			201					

所取遺跡名	所在地	コード 市町村	遺跡	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
馬場遺跡 長岡京跡 (左京五条一坊十二町)	長岡京市神足堂ヶ内地内	26209	64	34°55'36"	135°42'23"	20200710・0721	-	駐車場造成
			107					
長岡京跡 (右京八条一坊二町)	長岡京市勝竜寺三枚田14	26209	107	34°54'53"	135°42'09"	20200818・0819・0824～0826	-	鉄骨5階建
長岡京跡 (右京五条三坊十六町)	長岡京市うぢいす台30	26209	107	34°55'52"	135°41'09"	20200819	-	鉄骨2階建
長法寺遺跡 長岡京跡 (右京五条四坊十六町)	長岡京市長法寺南野2-1	26209	42	34°55'51"	135°40'53"	20200901・0902	-	鉄骨2階建
開田遺跡 長岡京跡 (右京七条一坊十六町)	長岡京市神足二丁目107		80					
			107	34°55'15"	135°41'53"	20200914～0917	-	鉄骨3階建
長岡京跡 (右京二条二坊十三町)	長岡京市井ノ内下田田10-6の一部(2号地)	26209	107	34°56'31"	135°41'34"	20200928	-	木造2階建

* 緯度、経度の測点は調査区の中心で、世界座標系を使用している。

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
今里遺跡	集落	弥生時代～近世	掘立柱建物、溝、小穴	弥生土器 土師器、須恵器 瓦器、瓦、埴輪	古墳時代以降の建物と中世以降の区画溝を検出
乙訓寺	寺院	平安時代～近世			
長岡京跡 (右京第1230次)	都城	平安時代			
開田城ノ内遺跡	集落	弥生～古墳時代	掘立柱建物、溝、小穴	土師器、須恵器 瓦器、瓦、石製品 土馬、鐵滓	長岡京跡右京第1177次調査の建物群と一連のもの
十三遺跡	散布地	平安時代			
長岡京跡 (右京第1232次)	都城	平安時代			
南栗ヶ塚道路	集落	近世		土製品	
長岡京跡 (立会第19365次)	都城				
陶器町遺跡	集落	近世以降	溝1条	硝梨管	
長岡京跡 (立会第19411次)	都城				
奥海印寺遺跡 (立会第19427次)	集落			土師器	
友岡遺跡	集落		土坑1基、溝2条		
新岡庵寺	寺院				
長岡京跡 (立会第20030次)	都城				
長岡京跡 (立会第20054次)	都城	近世以降		陶磁器、炭化物	
雲宮遺跡	集落				
長岡京跡 (立会第20072次)	都城				
神足遺跡	集落		小穴2基		
開田古墳群	古墳群				
近世崩壊寺城跡	城館				
長岡京跡 (立会第20074次)	都城				
長岡京跡開拓道路 (立会第20076次)	都城		溝3条、小穴2基		
馬場遺跡	集落			土師器、須恵器、瓦器	
長岡京跡 (立会第20097次)	都城				
長岡京跡 (立会第20139次)	都城	近世以降		陶器、木製品	
長岡京跡 (立会第20141次)	都城		土坑1基		
兵法寺遺跡	集落	弥生時代	土坑1基、溝2条	弥生土器、土師器	
長岡京跡 (立会第20166次)	都城	平安時代			

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
開田遺跡 長岡京跡 (立会第 20174 次)	集落 都城			土師器	
長岡京跡 (立会第 20192 次)	都城			土師器	

図 版



(1) 調査区全景（南西から）



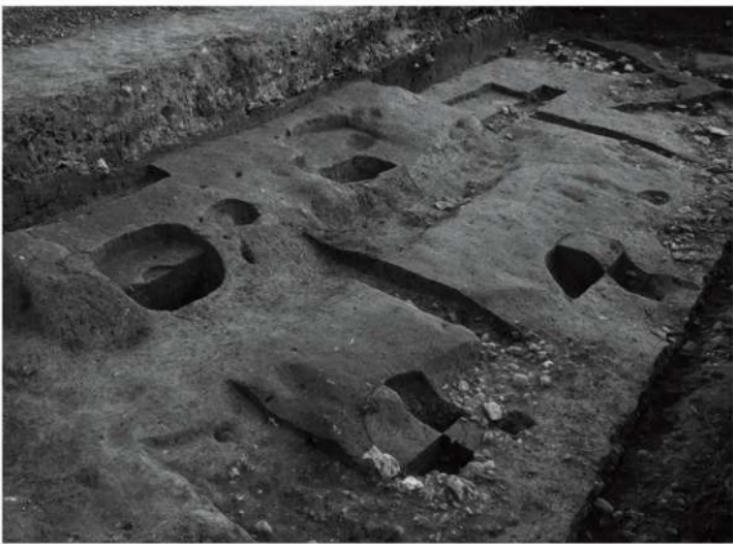
(2) 調査区全景（南東から）

長岡京跡右京第 1230 次調査

図版
一一



(1) 調査区全景 (南西から)



(2) 掘立柱建物 SB04 柱穴断面 (北西から)



(1) 溝 SD01・土坑 SK02 断面（北から）



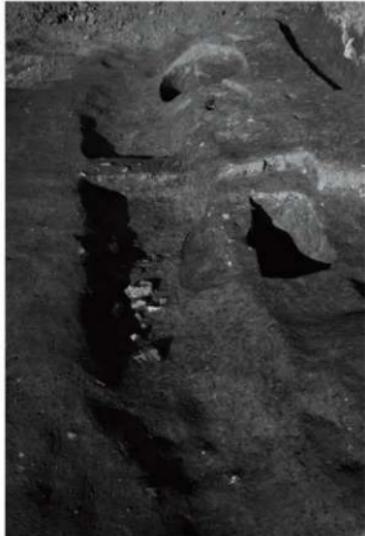
(2) 土坑 SK05・06（南東から）

長岡京跡右京第 1230 次調査

図版四



(1) 溝 SD03 検出 (南西から)



(2) 溝 SD07 断面 (南から)



(3) 出土遺物

長岡京跡右京第 1232 次調査

図版五



(1) 調査区全景 1 (西から)



(2) 調査区全景 2 (西から)

長岡京跡右京第 1232 次調査

図版六



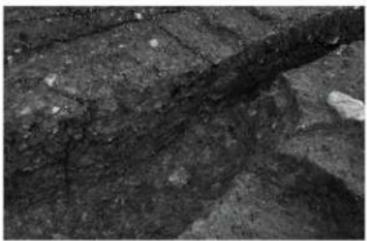
(1) 調査区全景3（東から）



(2) 調査区全景4（北東から）



(1) 柱穴 SK01 (北から)



(2) 柱穴 SK01 堆積状況 (北東から)



(3) 柱穴 SK01 堆積状況 2 (北西から)



(4) 柱穴 SK01 検出状況 (北から)



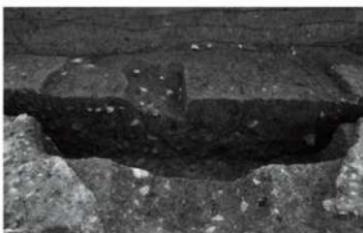
(5) 柱穴 SK01 柱抜き取り坑 (北東から)

長岡京跡右京第 1232 次調査

図版八



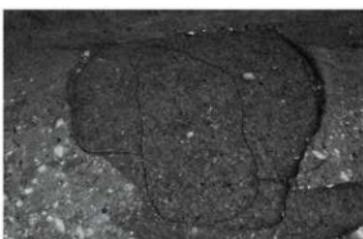
(1) 柱穴 SK02 (北から)



(2) 柱穴 SK02 堆積状況 (北から)



(3) 柱穴 SK02 堆積状況 2 (北西から)



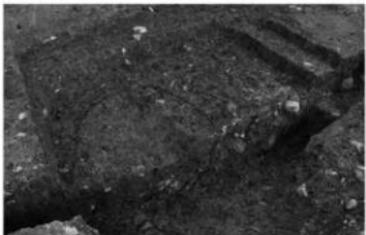
(4) 柱穴 SK02 検出状況 (北から)



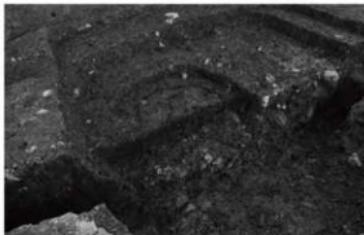
(5) 柱穴 SK02 柱抜き取り坑 (北東から)



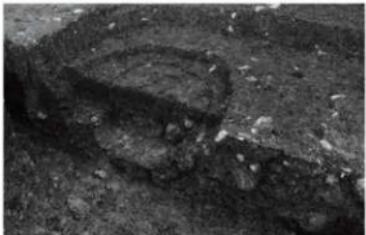
(1) 柱穴 SK03 (北東から)



(2) 柱穴 SK03 柱痕跡検出状況 (北東から)



(3) 柱穴 SK03 柱痕跡検出状況 2 (北東から)



(4) 柱穴 SK03 柱痕跡堆積状況 (北西から)



(5) 柱穴 SK03 堆積状況 (北西から)

長岡京跡右京第 1232 次調査

図版一〇



(1) 柱穴 SK03 完掘状況（北東から）



(2) 柱穴 SK03 柱抜き取り坑（南東から）



(3) 柱穴 SK05（南から）



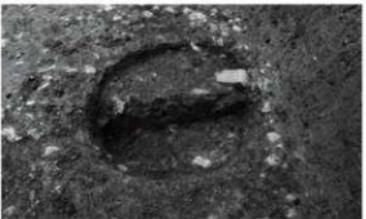
(4) 柱穴 SK05 柱痕跡（南から）



(5) 柱穴 SK05 検出状況（西から）

長岡京跡右京第 1232 次調査

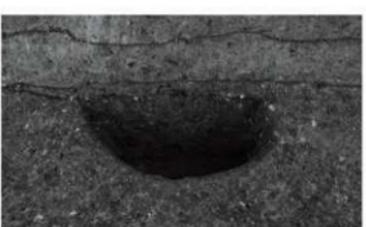
図版
一一



(2) 小穴 P1 (南から)



(3) 小穴 P2 (南から)



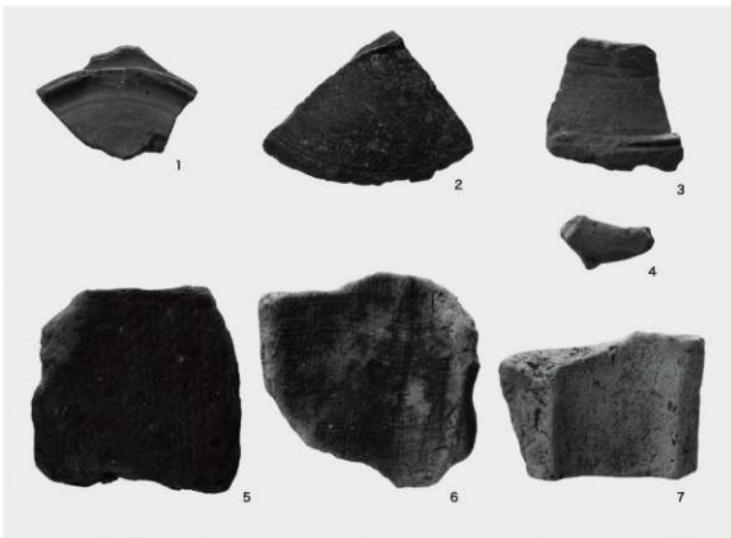
(4) 小穴 P3 (北から)



(5) 調査区堆積状況 (北東から)

長岡京跡右京第 1232 次調査

図版
一一



(1) 出土遺物 - 1



(2) 出土遺物 - 2

長岡市文化財調査報告書 第 76 冊

令和 3 (2021) 年 3 月 29 日 発行

編 集 公益財団法人 長岡市埋蔵文化財センター

〒 617-0853 京都府長岡市奥海印寺東条 10 番地の 1

電話 075-955-3622 FAX 075-951-0427

発 行 長岡市教育委員会

〒 617-0851 京都府長岡市開田一丁目 1-1

電話 075-951-2121 (代)

印 刷 山代印刷株式会社

〒 602-0062 京都府京都市上京区寺之内町通小川西入

宝鏡院東町 588 番地

電話 075-441-8177 FAX 075-441-8179

